

小学4年生～中学3年生 400人に聞く  
“食事”の実態と“食”とのかかわり

2016年5月

# 目次

■調査企画	1
■調査結果の内容	5

## I 「朝ごはん」の摂取実態

### 1. 家で「朝ごはん」を食べる回数..... 7

9割弱(88.0%)は「毎日」食べているが、週に「5・6回」(6.8%)、「3・4回」(2.8%)など、1割強(12.0%)は“食べない日がある”。平均は、週に「6.7回」。

●朝ごはんを“食べない日がある”のは、「起きるのがおそいから」(62.5%)が第一の原因。

### 2. 誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いか..... 9

「きょうだい」(67.7%)、あるいは「母親」(51.3%)と一緒に食べる人が多いが、「父親」(25.8%)は2割台。また、「ひとりで」食べることも2割強(23.2%)。

●「朝ごはん」を“ひとりで”食べる理由は、「家を出るのが家族より早いから」(47.8%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(35.9%)、「家を出るのが家族より遅いから」(17.4%)など。

### 3. 「朝ごはん」にどのようなものを食べているか..... 11

「パン」(72.0%)と「ごはん」(70.5%)が拮抗。

●小学生では“パン派”(78.0%)、中学生は“ごはん派”(70.4%)が多め。

### 4. 「朝ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか..... 12

「5～10分くらい」(40.9%)、あるいは「10～20分くらい」(38.9%)が多く、平均は「12.8分」。

●平均は、《男子》が「12.3分」、《女子》は「13.3分」。

## II 「夕ごはん」の摂取実態

### 1. 家で「夕ごはん」を食べる回数..... 13

9割強(91.3%)は「毎日」食べているが、“食べない日がある”人も1割弱(8.8%)。平均は、週に「6.8回」。

●夕ごはんを“食べない日がある”理由は、「塾や習い事があるから」(54.3%)、「外で食べるから」(42.9%)が主。

2. 誰と一緒に「夕ごはん」を食べることが多いか ..... 15

「母親」(91.3%)、あるいは「きょうだい」(84.0%)が主。「父親」(44.8%)は半数以下、「ひとりで」(6.0%)食べる時も。

●夕ごはんを“ひとりで”食べる理由は、「塾や習い事に行くから」(75.0%)が第一で、その時の気持ちは「何とも思わない」(70.8%)。

3. 家の「夕ごはん」で好きな料理、おかず ..... 17

「ハンバーグ」(74件)、「カレー」(50件)、「唐揚げ」(39件)がトップ3。

●その料理、おかずは「母親」(94.0%)が作ったものが大半。

4. 家の「夕ごはん」に“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか..... 19

週に「1・2回」(39.8%)、「3・4回」(9.3%)など、“出る”という人が半数強(53.5%)。平均は、週に「1.5回」。

5. ふだん何時くらいに「夕ごはん」を食べはじめるか..... 20

「7時くらい」(35.8%)、「7時30分くらい」(20.5%)など、半数以上が“7時台”(56.3%)。

6. 「夕ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか ..... 21

「20～30分くらい」(37.3%)が最も多く、次いで「30～40分くらい」が「10～20分くらい」と同率(25.8%)で、“20～40分くらい”という人が6割強(63.0%)。平均は「26.3分」。

### III 食事や料理に対する意識と実態

1. 家で食事の時どんなことをしているか ..... 22

「家族と話をする」(88.0%)、あるいは「テレビを見る」(79.8%)が主。

●少数派では「携帯電話で話す、メールをする」(2.3%)や「だまって食べているだけ」(5.0%)も。

2. 家で食事の時、家族と話しているのはどんなことか..... 23

「学校で起きたできごと」(79.8%)、「友だちのこと」(59.8%)、「テレビ番組やタレントのこと」(43.0%)がトップ3。

3. ふだん、「食事」をどのように食べているか ..... 24

マナー通り「おかずとご飯を交互に食べる」(82.0%)ことが断然多いが、「おかずだけ先に食べる」(12.8%)、「おかずを種類ずつ食べる」(11.0%)、「ごはんにふりかけをかける」(10.5%)などのケースも。

4. 食事を残すことがあるか ..... 25

「いつも残す」(1.3%)、「時々残す」(38.3%)など、5人に2人が“残すことがある”(39.5%)。

●“残すことがある”割合は、《男子》(32.5%)より《女子》(46.5%)の方が高い。

5. 食事を残すことについてどう思うか ..... 26

「もったいない」(67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(59.8%)など“罪悪感”を持っている人が多い反面、「食べきれない時は仕方がない」(28.0%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(13.8%)など“仕方がない”という見解も少なからずみられる。

6. 毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」をいつ食べているか..... 27

間食を“食べる”(94.3%)人が大半で、時間帯としては「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(82.8%)が断然多い。

7. 食事を誰と一緒に食べるのが楽しいか ..... 28

「母親」(79.3%)がトップ。次いで「兄弟」「姉妹」を合わせた“兄弟・姉妹”(67.8%)、「父親」(64.8%)が続く。

## IV “食”に関するしつけの意識と実態

1. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか ..... 29

「母親」(93.0%)がトップ、第2位に「父親」(58.8%)と、“両親の教え”が第一。以下「先生」(35.8%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(25.5%)の順。

2. 家で食べ物や食事について、守るように言われていること ..... 30

「好き嫌いをしない」(72.5%)、「食卓に肘をつかない」(71.8%)、「食べ物を粗末にしない」(62.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(57.3%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(51.3%)、「はしを正しく持つ」(50.3%)、「食事中に電話やメールをしない」(48.5%)など、“しつけられた”ことは多岐にわたる。

3. 『おはし』を正しく持っているか..... 32

自己判断の結果、4人に3人強(76.3%)が「正しく持っている」。

●「正しく持っている」割合は、《男子》が77.0%、《女子》は75.5%。

4. 食べ物や食事について、行ってきたこと ..... 33

「食器をならべる、料理を運ぶ」(72.3%)、「食事後の食器を運ぶ」(68.8%)、「食事のしたく」(41.8%)がトップ3。

●「食器をならべる、料理を運ぶ」など“食卓(食事)まわり”のことは、《女子》の方が経験率は高い。

4-1. 『食事のしたく』でしていること ..... 34

「お米をとぐ」(64.1%)、「野菜などの皮をむく、切る」(56.3%)、「ご飯を炊く」(55.7%)、「野菜などを洗う」(50.3%)、「料理を作る」(37.1%)など、“食事のしたく”はいろいろ。

●“作る料理”は、「カレー」(22件)が突出して多く、以下「野菜炒め」(9件)、「卵焼き」(7件)、「味噌汁」(6件)、「ギョウザ」(5件)、「サラダ」(5件)、「チャーハン」(5件)など。

5. 食べ物や食事について、父親はどんなことをしているか..... 36

8割弱(78.8%)の父親が、「食事後の食器を運ぶ」(45.3%)、「食品の買い物」(40.4%)、「料理を作る」(37.8%)、「食器を洗う」(36.5%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(32.4%)などをしている。

## V “食”に関する意識と実態

### 1. “食”について、知りたいと思っていること・関心があること ..... 38

「料理の作り方」(66.3%)が第一。以下「からだに良い食べ物」(39.8%)、「おいしい食品・店」(38.5%)、「栄養」(34.8%)、「正しい食べ方、マナー」(25.5%)、「安全性」(23.8%)などに関心がある。

●《女子》の5人に4人(80.0%)が「料理の作り方」に関心があるが、《男子》でも半数強(52.5%)。

### 2. “食の安全”への関心度 ..... 40

「とても関心がある」(16.5%)、「まあ関心がある」(44.0%)を合わせて、5人に3人が“関心がある”(60.5%)。

●“関心がある”ことは、「異物混入」(50.0%)、「保存期間」(40.1%)、「食品添加物」(38.4%)がトップ3。

### 3. ふだん“安心して食べられる”のは、どんな食べ物・食事か ..... 42

「家の食事」(97.8%)は当然だが、以下「給食」(65.3%)、「外食」(33.3%)、「スナック菓子」(23.8%)、「ファストフード」(18.5%)、「外で買った惣菜やお弁当」(17.3%)が続く。

### 4. 食べ物や食事が“安心して食べられない”と思うのは、どんなときか ..... 43

「家族が安心ではないと言うとき」(57.8%)が最も多く、以下「不正・偽装などが心配なとき」(36.0%)、「先生が安心ではないと言うとき」(32.8%)、「国産ではないとき」(27.0%)、「原材料がわからないとき」(25.0%)などは“安心して食べられない”と思う。

●“家族や先生が安心ではないと言うとき”は、《女子》の方が高め。

### 5. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていること ..... 44

「異物混入事件」(48.3%)がトップ。第2位に「キャラ弁ブーム」(28.3%)、同率第3位は「異常気象などによる農作物の不作や値上がり」「アイデア料理(おにぎらずなど)ブーム」「B級グルメ・ご当地グルメ」(各27.8%)。

●《女子》では「アイデア(おにぎらずなど)料理ブーム」(37.5%)が第2位、第3位に「キャラ弁ブーム」(37.0%)。

## VI 学校生活における“食”とのかかわり

### 1. 『学校給食』が好きか ..... 45

『学校給食』が「ある」人(74.8%:小学校100.0%、中学校49.5%)の3人に2人が「好き」(66.6%)、「嫌い」な人は1割(10.0%)。

●《小学生》の4人に3人が「好き」(75.0%)。

### 1-1. 学校給食について、どのように感じているか ..... 47

「おいしい」(63.9%)、「みんなで食べると楽しい」(58.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(44.1%)など、“良いイメージ”が上位。

1-2. 給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理 ..... 49

“好きな料理”は、日本人の“国民食”とも言える「カレー」(85件)がトップで、次いで「揚げパン」(50件)も多い。以下、「唐揚げ」(13件)、「ハンバーグ」(12件)、「サラダ」(11件)、「うどん」(10件)など。

“嫌いな料理”は、「特になし」(62件)が多いが、料理としては「魚料理」(24件)が最も多く、以下「サラダ」(19件)、「豆が入っている料理」(15件)、「パン」(14件)、「スープ」(12件)、「混ぜご飯」(11件)など。

1-3. 給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか ..... 51

「わからない」(52.2%)という人が半数強を占めるが、5割弱(47.5%)が「出る」。

●地元の材料は、「野菜」(26件)が最も多く、以下「大根」(14件)、「にんじん」(12件)、「小松菜」(11件)、「米」(11件)、「梨」(11件)など。

2. 学校で、“食”について教わったこと ..... 53

大半の人が、「栄養」(65.0%)、「食の安全」(47.0%)、「料理の作り方」(45.0%)、「お米の作り方」(42.5%)、「食事を食べる順や三角食べ」(40.5%)、「食べ物の旬」(40.3%)などについて“教わった”(94.0%)。

3. 学校でお米や野菜を育てたこと ..... 54

8割強が「ある」(84.5%)。

●育てたものは、「米」(184件)が圧倒的に多く、以下「トマト」(99件)、「ゴーヤ」(42件)、「ミニトマト」(37件)、「なす」(35件)、「大根」(28件)、「きゅうり」(27件)、「じゃがいも」(22件)などさまざま。

●学校でお米や野菜を育てたことが“ない”人の半数以上が育ててみたいと思う(56.5%)。

3-1. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか ..... 57

「楽しい」(55.6%)、「面白い」(34.6%)が、「たいへん」(50.6%)、「むずかしい」(49.4%)という感想も多い。

# 調査企画

## 1. 調査目的

この調査は、東京近郊に住む小・中学生を対象に食事の実態や“食”にかかわる意識と実態を探ることを目的に実施しました。

なお一部、東日本大震災（2011年3月）が発生した時期（3月3日～3月10日）に実施した調査「親から継ぐ『食』、育てる『食』」（2011年発表）との結果と比較し、その変遷をみていきます。

## 2. 調査対象

首都20km～50kmのドーナツ圏に居住する小学4年生～中学3年生の男女

## 3. 調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する小・中学生を対象とするエリアサンプリング法

## 4. 調査方法

調査票を用いた自記式留置法

## 5. 調査期間

2016年2月20日～3月4日

## 6. 標本構成

有効回収400人の標本構成は以下の通りです（上段：サンプル数、下段：構成比 %）。

### F1. 性別

	サンプル数	男子	女子
全体	400 100.0	200 50.0	200 50.0
小学生	200 100.0	100 50.0	100 50.0
中学生	200 100.0	100 50.0	100 50.0

## F2. 学 年

	サンプル数	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生
全 体	400 100.0	67 16.8	67 16.8	66 16.5	66 16.5	67 16.8	67 16.8
男 子	200 100.0	34 17.0	33 16.5	33 16.5	33 16.5	34 17.0	33 16.5
女 子	200 100.0	33 16.5	34 17.0	33 16.5	33 16.5	33 16.5	34 17.0

## F3. 同居している家族

	サンプル数	父親	母親	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他の人
全 体	400 100.0	386 96.5	397 99.3	126 31.5	108 27.0	125 31.3	135 33.8	20 5.0	32 8.0	0 0.0
男 子	200 100.0	192 96.0	198 99.0	72 36.0	53 26.5	59 29.5	75 37.5	10 5.0	17 8.5	0 0.0
女 子	200 100.0	194 97.0	199 99.5	54 27.0	55 27.5	66 33.0	60 30.0	10 5.0	15 7.5	0 0.0

## F4. 同居家族人数(自分も含めて)

	サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人 以上	平均 (人)
全 体	400 100.0	0 0.0	31 7.8	192 48.0	141 35.3	36 9.0	4.5
男 子	200 100.0	0 0.0	13 6.5	92 46.0	74 37.0	21 10.5	4.6
女 子	200 100.0	0 0.0	18 9.0	100 50.0	67 33.5	15 7.5	4.4

## F5. 塾に通っているか

	サンプル数	通って いる	通って いない
全 体	400 100.0	214 53.5	186 46.5
男 子	200 100.0	104 52.0	96 48.0
女 子	200 100.0	110 55.0	90 45.0



F6-1. 身長

	サンプル数	140cm未満	140～145cm未満	145～150cm未満	150～155cm未満	155～160cm未満	160～165cm未満	165～170cm未満	170cm以上	平均(cm)
全体	400 100.0	63 15.8	41 10.3	45 11.3	83 20.8	67 16.8	50 12.5	23 5.8	28 7.0	151.4
男子	200 100.0	32 16.0	19 9.5	25 12.5	27 13.5	20 10.0	29 14.5	20 10.0	28 14.0	153.2
女子	200 100.0	31 15.5	22 11.0	20 10.0	56 28.0	47 23.5	21 10.5	3 1.5	0 0.0	149.5

F6-2. 体重

	サンプル数	40kg未満	40～45kg未満	45～50kg未満	50～55kg未満	55～60kg未満	60kg以上	平均(kg)
全体	400 100.0	95 23.8	67 16.8	80 20.0	74 18.5	42 10.5	42 10.5	41.7
男子	200 100.0	47 23.5	33 16.5	31 15.5	31 15.5	23 11.5	35 17.5	43.1
女子	200 100.0	48 24.0	34 17.0	49 24.5	43 21.5	19 9.5	7 3.5	40.2

F6-3. 肥満度(日比式)

	サンプル数	やせすぎ	やせ気味	ふつう	太り気味	肥満
全体	400 100.0	31 7.8	103 25.8	229 57.3	23 5.8	14 3.5
男子	200 100.0	17 8.5	54 27.0	105 52.5	15 7.5	9 4.5
女子	200 100.0	14 7.0	49 24.5	124 62.0	8 4.0	5 2.5

※日比式は体重と身長別に算出した標準体重から肥満度を判定

$$\text{肥満度} = (\text{体重(kg)} - \text{標準体重(kg)}) \div \text{標準体重(kg)} \times 100$$

－20%未満「やせすぎ」、－20～－10%未満「やせ気味」、－10～10%未満「普通／標準」、10～20%未満「過体重／ふとり気味」、20%以上「肥満」



## 調査結果の内容



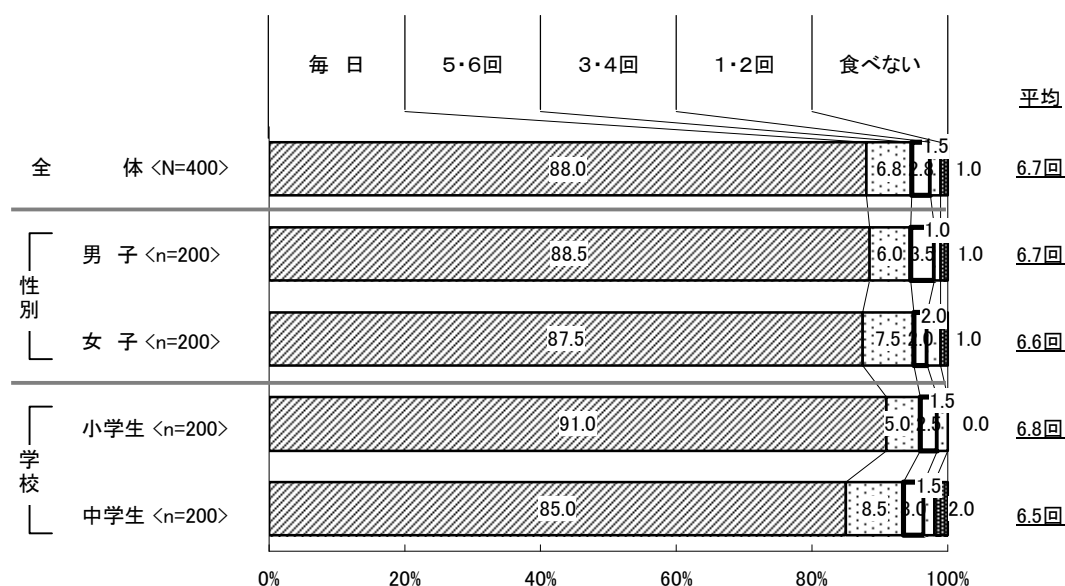
# I 「朝ごはん」の摂取実態

## 1. 家で「朝ごはん」を食べる回数

9割弱(88.0%)は「毎日」食べているが、週に「5・6回」(6.8%)、「3・4回」(2.8%)など、1割強(12.0%)は“食べない日がある”。平均は、週に「6.7回」。

●朝ごはんを“食べない日がある”のは、「起きるのがおそいから」(62.5%)が第一の原因。

図 1. 家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているか



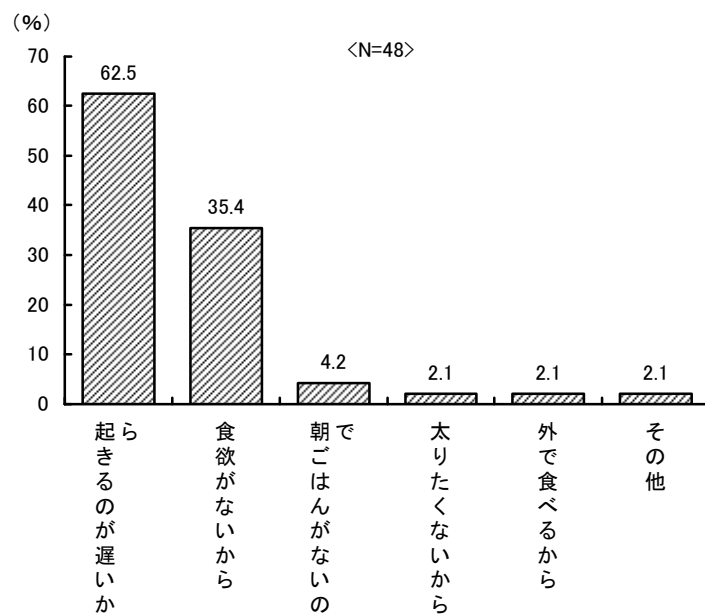
家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているかをみると、「毎日」という人が9割弱(88.0%)と多数を占めていますが、「5・6回」(6.8%)や「食べない」(1.0%)など、“食べない日がある”という人も1割強(12.0%)みられます。平均は、週に「6.7回」となっています。

性別にみると、いずれも「毎日」食べる割合が9割弱と多数を占めており、平均も《男子》が「6.7回」、《女子》が「6.6回」と同程度です。

学校別にみると、「毎日」食べる割合は《中学生》(85.0%)より《小学生》(91.0%)の方が高めです。なお、“食べない日がある”割合は、小学生では《女子》(6.0%)より《男子》(12.0%)の方が高くなっていますが、中学生では《男子》(11.0%)、《女子》(19.0%)と、逆転しています。

◆前回の調査(2011年3月実施)と比較すると、「毎日」食べている割合が87.8%→88.0%と、大きな変化はありません。

図 2. 「朝ごはん」を、家で食べない日がある理由（複数回答）



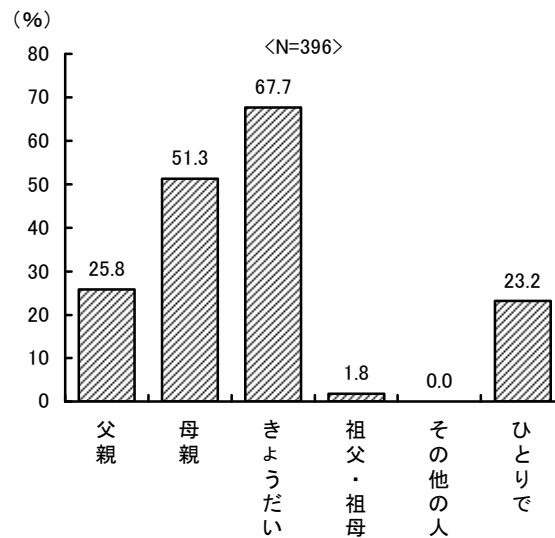
朝ごはんを家で“食べない日がある”人（48人）の理由をみると、「起きるのが遅いから」（62.5%）が第一、続く「食欲がないから」（35.4%）が主になっています。

## 2. 誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いか

「きょうだい」(67.7%)、あるいは「母親」(51.3%)と一緒に食べる人が多いが、「父親」(25.8%)は2割台。また、「ひとりで」食べることも2割強(23.2%)。

●「朝ごはん」を“ひとりで”食べる理由は、「家を出るのが家族より早いから」(47.8%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(35.9%)、「家を出るのが家族より遅いから」(17.4%)など。

図 3. 誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いか（複数回答）



性別	男子 <n=198>	31.3	51.5	66.2	0.5	-	24.2
	女子 <n=198>	20.2	51.0	69.2	3.0	-	22.2
学校	小学生 <n=200>	26.0	57.5	76.0	2.0	-	18.0
	中学生 <n=196>	25.5	44.9	59.2	1.5	-	28.6
兄弟	いない(一人っ子) <n=30>	36.7	80.0	-	13.3	-	23.3
	いる <n=366>	24.9	48.9	73.2	0.8	-	23.2

誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いかをみると、「きょうだい」(67.7%)、もしくは「母親」(51.3%)が5割以上と多く、「父親」は2割台(25.8%)にとどまっています。また、「ひとりで」(23.2%)食べることも少なくはないようです。

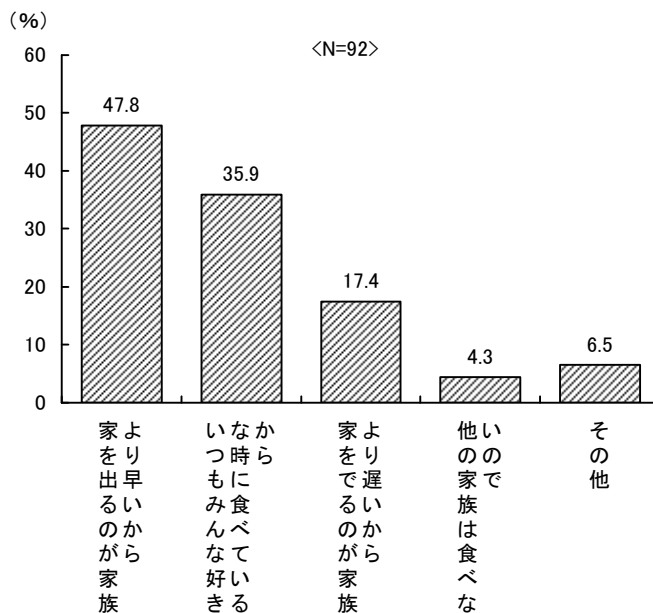
性別にみても、いずれも「きょうだい」、もしくは「母親」と一緒に食べる割合が5割以上と多くなっています。なお、「父親」の割合は、《女子》(20.2%)より《男子》(31.3%)の方が10ポイントほど高くなっています。

学校別にみても、いずれも「きょうだい」、もしくは「母親」が多くなっていますが、その割合はいずれも《小学生》の方が高くなっています。小学生の方が中学生より多くの複数の家族と一緒に食べていることがうかがえます。なお、《中学生》では「ひとりで」が28.6%と、《小学生》(18.0%)より10ポイントほど高くなっているのが目につきます。

また、「きょうだい」と一緒に食べる割合を、きょうだいが“いる人”(366人)に限ってみると7割強(73.2%)と、「母親」(48.9%)を大きく上回っています。

◆前回の調査と比較すると、「きょうだい」(66.6%→67.7%)や「母親」(51.8%→51.3%)と一緒に食べる割合は横ばい傾向ですが、「父親」(21.7%→25.8%)の割合がやや増えています。

図 4. 朝ごはんをひとりで食べる理由 (複数回答)



「朝ごはん」を“ひとりで”食べることがある人(92人)に、その理由を聞いてみたところ、「家を出るのが家族より早いから」(47.8%)が最も多く、以下「いつもみんな好きな時に食べているから」(35.9%)、「家を出るのが家族より遅いから」(17.4%)が続いています。

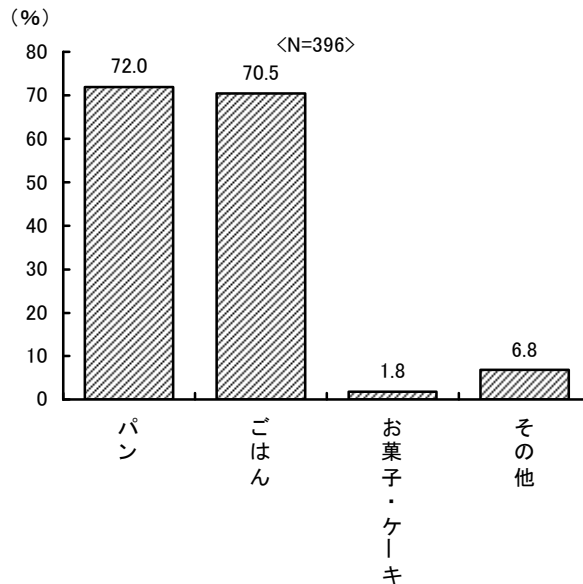


### 3. 「朝ごはん」にどのようなものを食べているか

「パン」(72.0%)と「ごはん」(70.5%)が拮抗。

●小学生では“パン派”(78.0%)、中学生は“ごはん派”(70.4%)が多め。

図 5. 「朝ごはん」にどのようなものを食べているか (複数回答)



性別	男子 <n=198>	71.7	71.2	2.0	6.1
	女子 <n=198>	72.2	69.7	1.5	7.6
学校	小学生 <n=200>	78.0	70.5	2.0	9.0
	中学生 <n=196>	65.8	70.4	1.5	4.6

朝ごはん食べる主食をみると、「ごはん」が70.5%、「パン」が72.0%と拮抗しています。

性別にみても、いずれも「パン」を食べる割合の方が「ごはん」をやや上回っていますが、《女子》では「ごはん」が69.7%、「パン」が72.2%と、その差が《男子》(ごはん71.2%、パン71.7%)より若干大きくなっています。

学校別にみると、《小学生》は「パン」(78.0%)が「ごはん」(70.5%)を上回っていますが、《中学生》では逆に「ごはん」(70.4%)の方が「パン」(65.8%)より多めです。

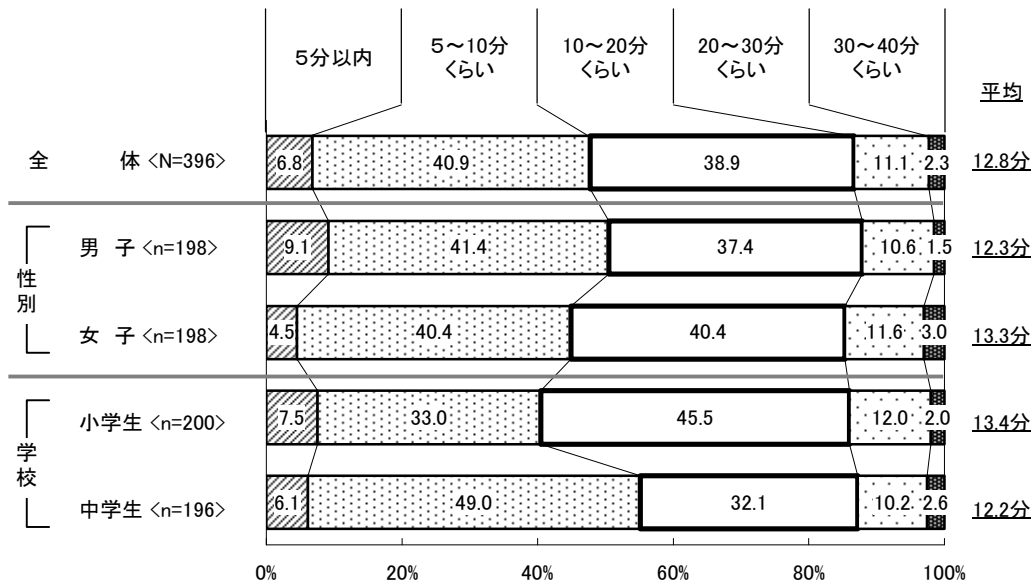
◆前回の調査と比較すると、「パン」(76.3%→72.0%)、「ごはん」(72.7%→70.5%)と、いずれも若干減少しています。

#### 4. 「朝ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか

「5～10分くらい」(40.9%)、あるいは「10～20分くらい」(38.9%)が多く、平均は「12.8分」。

●平均は、《男子》が「12.3分」、《女子》は「13.3分」。

図 6. 「朝ごはん」を食べるのにかける時間



朝ごはんはどのくらいの時間をかけて食べているのかをみると、「5～10分くらい」(40.9%)という人が最も多く、次いで「10～20分くらい」(38.9%)で、この「5～20分くらい」の時間という人が8割(79.8%)を占めています。平均は、「12.8分」となっています。小・中学生でも勤め人同様、「朝ごはん」は落ち着いて食べられないのが現実のようです。

性別にみると、いずれも「5～20分くらい」の時間が中心で、その割合は《男子》(78.8%)、《女子》(80.8%)とも8割前後を示しています。平均は、《男子》が「12.3分」、《女子》は「13.3分」です。

学校にみても、いずれも「5～20分くらい」の時間が中心ですが、平均は、《小学生》が「13.4分」、《中学生》が「12.2分」と、小学生の方が長めです。

◆前回の調査と比較すると、前回も「5～10分くらい」(38.0%)、「10～20分くらい」(43.6%)が中心で、「5～20分くらい」の割合が81.6%→79.8%と8割前後で推移しています。平均は「13.0分」→「12.8分」と、大きな変化はありません。

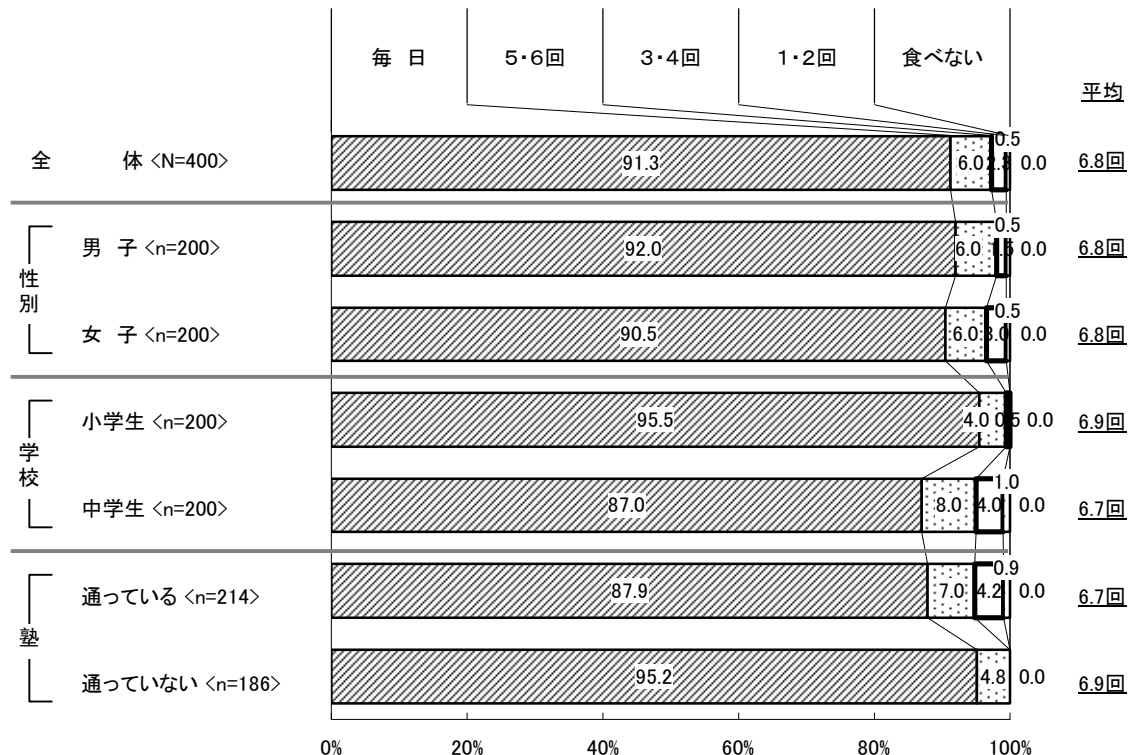
## Ⅱ 「夕ごはん」の摂取実態

### 1. 家で「夕ごはん」を食べる回数

9割強(91.3%)は「毎日」食べているが、“食べない日がある”人も1割弱(8.8%)。平均は、週に「6.8回」。

●夕ごはんを“食べない日がある”理由は、「塾や習い事があるから」(54.3%)、「外で食べるから」(42.9%)が主。

図 7. 家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているか



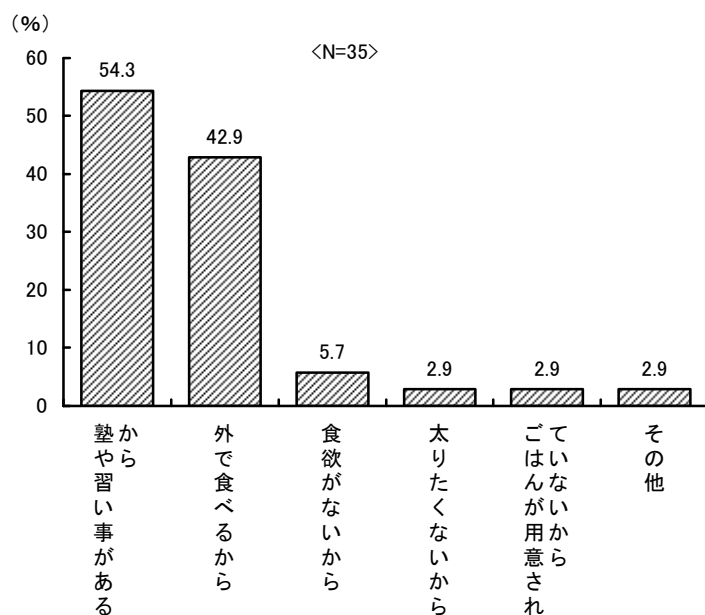
家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているかをみると、「毎日」という人が9割強(91.3%)を占めていますが、「5・6回」(6.0%)、「3・4回」(2.3%)など“食べない日がある”という人も1割弱(8.8%)みられます。なお、「食べない」という人は皆無でした。平均は、週に「6.8回」です。

夕ごはんを「毎日」食べている割合は、性別では《女子》(90.5%)より《男子》(92.0%)、学校別では《中学生》(87.0%)より《小学生》(95.5%)の方が一層高率です。

なお、《塾に通っている》人は「毎日」(87.9%)の割合が、《塾に通っていない》人の95.2%に比べて7ポイントほど低く、“食べない日がある”割合が1割強(12.1%)を示しています。さらに、これを学校別でみると、小学生では「毎日」の割合が塾に通っている、通っていないに関係なく同程度ですが、中学生では《塾に通っている》人(82.9%)の方が《塾に通っていない》人(94.4%)より12ポイントほど低くなっているのが目につきます。

◆前回の調査と比較すると、「毎日」食べている割合が 91.8%→91.3%と同程度で推移しています。平均は、週に「6.8回」→「6.8回」と変化はありません。

図 8. 「夕ごはん」を家で食べない日がある理由（複数回答）



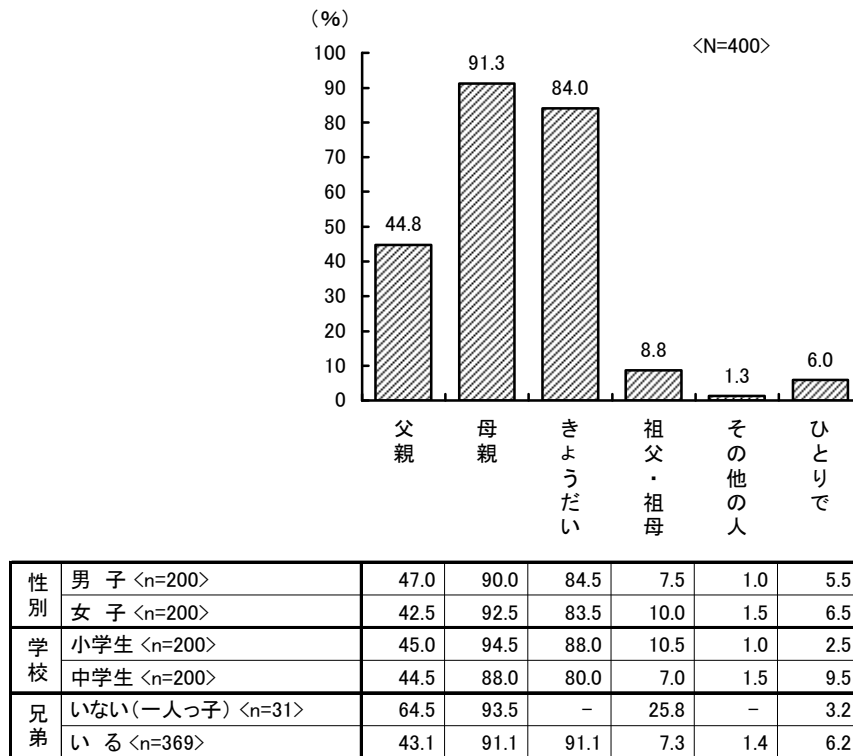
家で夕ごはんを“食べない日がある”人（35人）の理由は「塾や習い事があるから」（54.3%）、あるいは「外で食べるから」（42.9%）が主となっています。なお、《塾に通っている》人（26人）では「塾や習い事があるから」（69.2%）が理由の大半です。

## 2. 誰と一緒に「夕ごはん」を食べることが多いか

「母親」(91.3%)、あるいは「きょうだい」(84.0%)が主。「父親」(44.8%)は半数以下、「ひとりで」(6.0%)食べる時も。

●夕ごはんを“ひとりで”食べる理由は、「塾や習い事に行くから」(75.0%)が第一で、その時の気持ちは「何とも思わない」(70.8%)。

図 9. 誰と一緒に「夕ごはん」を食べることが多いか（複数回答）



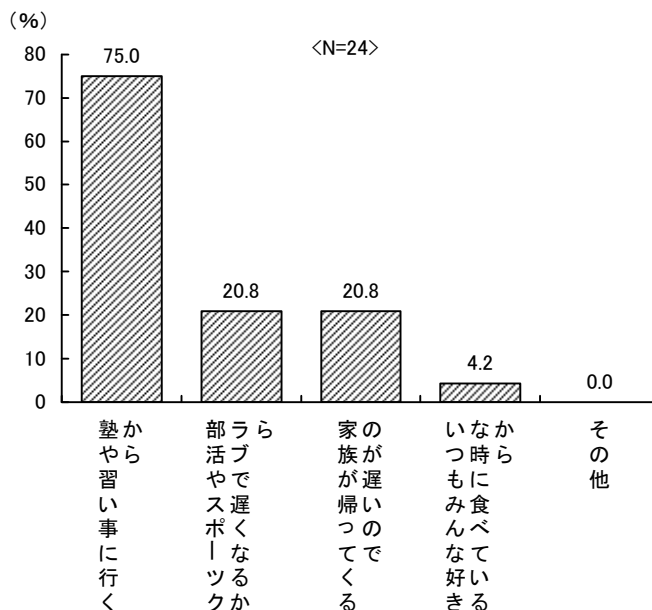
誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いかをみると、「母親」(91.3%)、それに「きょうだい」(84.0%)が主となっています。そのほかでは「父親」(44.8%)が半数以下で、「祖父・祖母」(8.8%)が1割弱、「ひとりで」(6.0%)食べるというケースもみられます。なお、「父親」の割合は半数以下ですが、“朝ごはん”に比べて25.8%→44.8%と20ポイント近く増えているのが目につきます。

性別や学校別にみても、いずれも「母親」と「きょうだい」が主となっています。なお、「父親」と一緒に食べる割合は、《女子》(42.5%)より《男子》(47.0%)の方が高めですが、いずれも半数に達していません。

なお、「きょうだい」の割合をきょうだいが“いる人”(369人)に限ってみると91.1%と、「母親」(91.1%)と同率です。また、祖父母と“同居している人”(35人)では「祖父・祖母」の割合が7割弱(68.6%)で「きょうだい」(68.6%)と同率です。

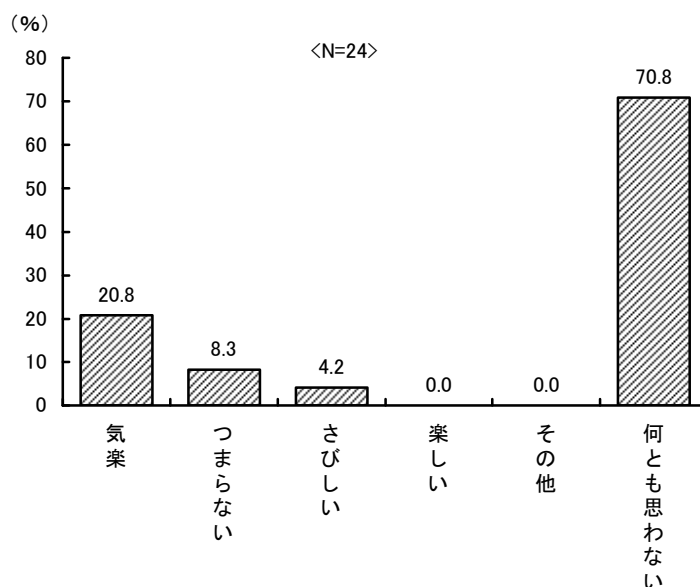
◆前回の調査と比較すると、「母親」「きょうだい」が主であるのは変わりありません。「母親」(90.3%→91.3%)、「きょうだい」(84.0%→84.0%)、「父親」(44.3%→44.8%)は横ばい傾向ですが、「祖父・祖母」(11.3%→8.8%)、「ひとりで」(9.8%→6.0%)は若干減少しています。

図 10. 「タごはん」をひとりで食べる理由（複数回答）



タごはんを“ひとりで”食べる人（24人）の理由は、「塾や習い事に行くから」（18人、75.0%）が断然多く、そのほか「部活やスポーツクラブで遅くなるから」「家族が帰ってくるのが遅いので」（各5人、20.8%）などとなっています。なお、《塾に通っている》人（20人）では「塾や習い事に行くから」（17人、85.0%）が一層高率です。

図 11. 「タごはん」をひとりで食べる時の気持ち（複数回答）



タごはんを“ひとりで”食べる時、どういう気持ちか聞いてみたところ、「何とも思わない」（17人、70.8%）という人が圧倒的に多くなっていますが、「気楽」（5人、20.8%）という人もみられます。

### 3. 家の「夕ごはん」で好きな料理、おかず

「ハンバーグ」(74件)、「カレー」(50件)、「唐揚げ」(39件)がトップ3。

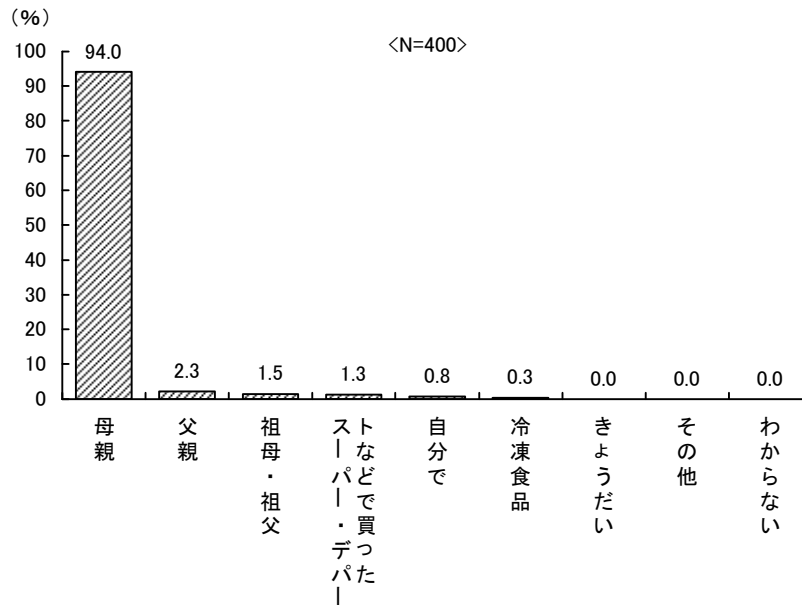
●その料理、おかずは「母親」(94.0%)が作ったものが大半。

表 1. 家の夕ごはんでは好きな料理、おかず (自由回答：複数回答)

順位		件数	男子	女子
1	ハンバーグ	74	39	35
2	カレー	50	26	24
3	唐揚げ	39	22	17
4	ギョウザ	26	15	11
5	オムライス	23	6	17
6	スパゲティ、パスタ	13	5	8
7	肉じゃが	12	4	8
8	コロッケ	7	3	4
	ステーキ	7	6	1
	麻婆豆腐	7	6	1
11	シチュー	6	2	4
	鍋	6	2	4
	豚のしょうが焼き	6	3	3
	味噌汁	6	4	2
15	グラタン	5	2	3
	とんかつ	5	5	0
17	エビフライ	4	1	3
	サラダ	4	2	2
	炊き込みご飯	4	3	1
	焼き肉	4	2	2
	ラーメン	4	4	0
	その他	88	38	50

家の夕ごはんでは好きな料理、おかずを一品、具体的にあげてもらったところ、「ハンバーグ」(74件)が最も多く、以下「カレー」(50件)、「唐揚げ」(39件)、「ギョウザ」(26件)、「オムライス」(23件)、「スパゲティ、パスタ」(13件)、「肉じゃが」(12件)などの順となっています。男女とも「ハンバーグ」(男子39件、女子35件)がトップです。

図 12. 好きな料理、おかずを作った人



前述の好きな料理、おかずは誰が作ったものか聞いてみたところ「母親」(94.0%)が断然多くなっています。

なお、母親以外をあげた人の好きな料理、おかずをみると、

《父親》・・・「ハンバーグ」(3件)、「アスパラの肉巻き」、「焼きそば」、「ギョウザ」、「パスタ」、「焼き肉」、「チキンステーキ」

《祖母・祖父》・・・「ハンバーグ」(3件)、「カレーライス」(2件)、「すき焼き」

《自分で》・・・「ハンバーグ」(2件)、「八王子納豆焼き」

《スーパーなどで買った》・・・「かにクリームコロッケ」、「納豆ご飯」、「マグロの刺身」、「ギョウザ」、「回鍋肉」

《冷凍食品》・・・「コロッケ」

などがあげられています。

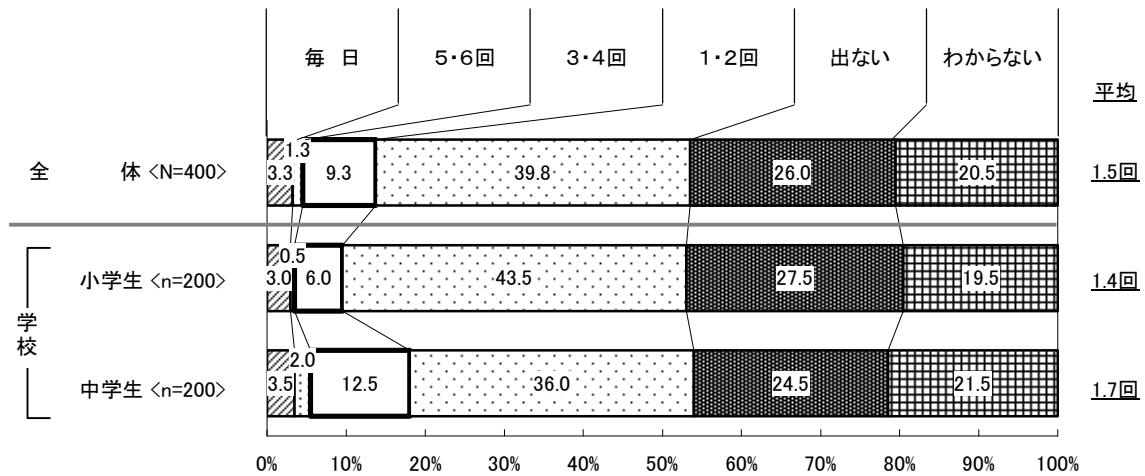
◆前回の調査と比較すると、前回は「母親」(92.0%)が断然多くなっていました。



#### 4. 家の「夕ごはん」に“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか

週に「1・2回」(39.8%)、「3・4回」(9.3%)など、“出る”という人が半数強(53.5%)。平均は、週に「1.5回」。

図 13. 家の「夕ごはん」に“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか



家の「夕ごはん」に、「スーパー・デパートなどで買ったおかず」や「冷凍食品」など“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか聞いてみたところ、「わからない」という人も2割(20.5%)みられますが、週に「1・2回」(39.8%)、「3・4回」(9.3%)など、“出る”という人が半数強(53.5%)を占めています。「出ない」と“手作り度が高い”家庭は26.0%と、4分の1強の割合です。平均は、週に「1.5回」です。

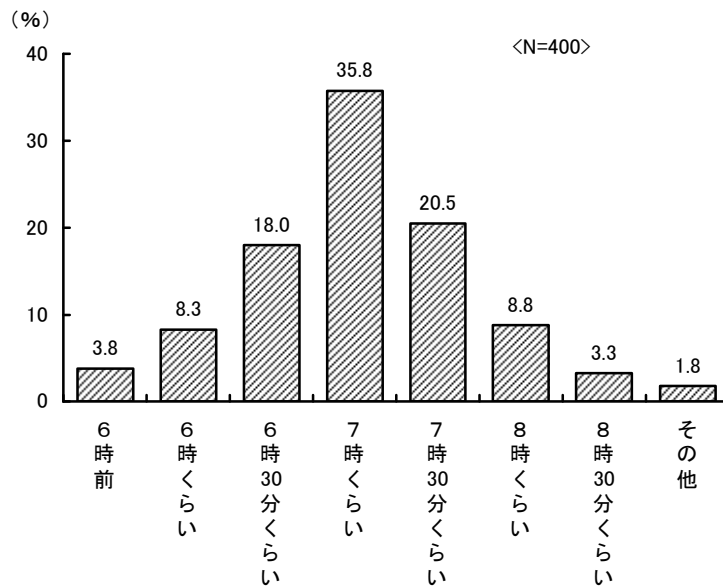
学校別にみると、いずれの家庭も「1・2回」が最も多くなっていますが、その割合は《中学生》がいる家庭(36.0%)より《小学生》がいる家庭(43.5%)の方が高めです。また、“出る”という割合は《小学生》がいる家庭(53.0%)、《中学生》がいる家庭(54.0%)とも半数強で大差はありません。平均は、《小学生》がいる家庭(1.4回)より《中学生》がいる家庭(1.7回)の方が多くなっています。

◆前回の調査と比較すると、“出る”割合が52.8%→53.5%、平均も、週に「1.6回→1.5回」と横ばい傾向です。

## 5. ふだん何時くらいに「夕ごはん」を食べはじめるか

「7時くらい」(35.8%)、「7時30分くらい」(20.5%)など、半数以上が“7時台”(56.3%)。

図 14. ふだん何時くらいに「夕ごはん」を食べはじめるか（週のうち多い日）



性別	男子 <n=200>	3.5	6.5	18.0	32.5	22.5	12.0	2.0	3.0
	女子 <n=200>	4.0	10.0	18.0	39.0	18.5	5.5	4.5	0.5
学校	小学生 <n=200>	5.0	8.0	17.5	37.0	23.0	8.0	1.0	0.5
	中学生 <n=200>	2.5	8.5	18.5	34.5	18.0	9.5	5.5	3.0
塾	通っている <n=214>	3.3	8.4	19.2	37.9	17.8	8.4	2.3	2.8
	通っていない <n=186>	4.3	8.1	16.7	33.3	23.7	9.1	4.3	0.5

ふだん何時くらいに夕ごはんを食べはじめるか、週のうち多い日をみると、「7時くらい」(35.8%)が最も多く、次いで「7時30分くらい」(20.5%)が多く、“7時台”に食べはじめている人が半数以上(56.3%)を占めています。そのほかでは“6時台”が2割台(26.3%)、“8時台”が1割強(12.0%)となっています。

性別にみても、いずれも“7時台”が最も多くなっていますが、その割合は《男子》(55.0%)、《女子》(57.5%)と、大差はありません。《女子》では、それより早い“6時台”が3割弱(28.0%)と《男子》(24.5%)に比べて高めです。逆に“8時台”は《男子》(14.0%)の方が《女子》(10.0%)より高くなっています。

学校別にみても、いずれも“7時台”が最も多くなっていますが、その割合は《中学生》(52.5%)より《小学生》(60.0%)の方が高めです。

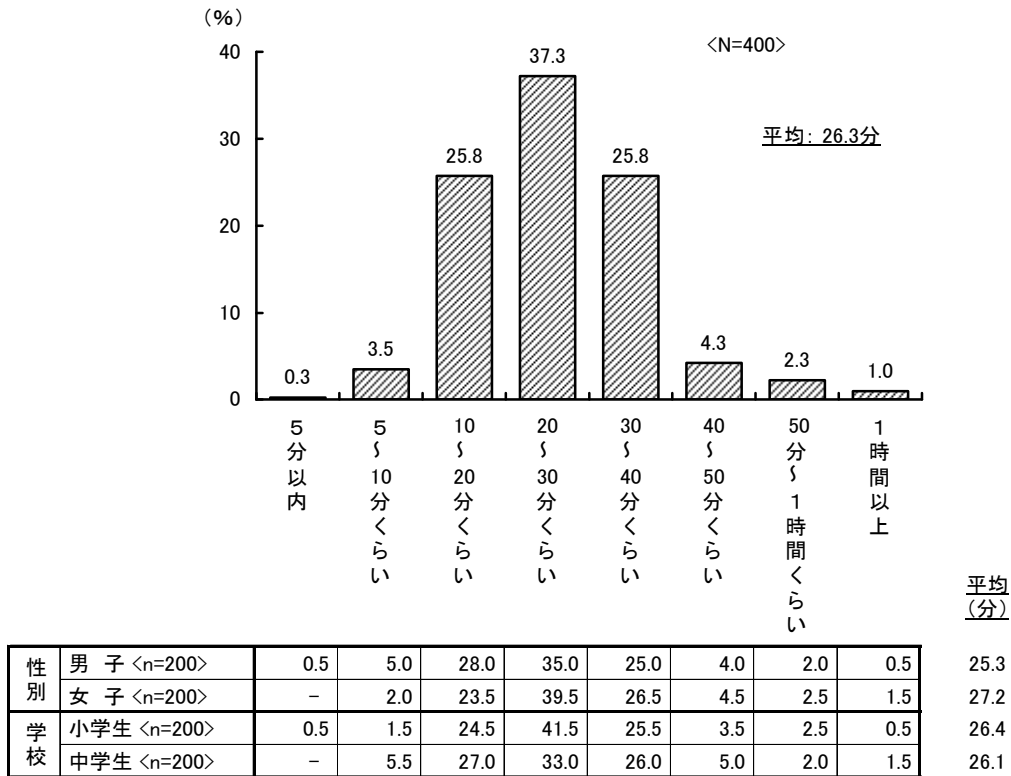
なお、塾に《通っている》人では“6時台”(27.6%)が《通っていない》人(24.7%)より高めですが、顕著な差はみられません。

◆前回の調査と比較すると、前回も「7時くらい」(37.0%)、「7時30分くらい」(19.5%)など、“7時台”(56.5%)が中心で、今回(56.3%)と変わりありません。

## 6. 「夕ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか

「20～30 分くらい」(37.3%)が最も多く、次いで「30～40 分くらい」が「10～20 分くらい」と同率(25.8%)で、“20～40 分くらい”という人が6割強(63.0%)。平均は「26.3分」。

図 15. 「夕ごはん」を食べるのにかける時間



夕ごはんを食べるのにどのくらいの時間をかけるか聞いてみたところ、「20～30分くらい」(37.3%)が最も多く、以下「30～40分くらい」と「10～20分くらい」が同率(25.8%)が続いています。平均は「26.3分」、前述した朝ごはん(平均12.8分)の2倍以上の時間をかけています。

性別や学年別にみても、いずれも「20～30分くらい」が最も多くなっています。その割合は《男子》(35.0%)より《女子》(39.5%)、《中学生》(33.0%)より《小学生》(41.5%)の方が高めです。

平均は、《男子》(25.3分)より《女子》(27.2分)、《中学生》(26.1分)より《小学生》(26.4分)の方が長めですが、大差はありません。

★前回の調査と比較すると、前回も「20～30分くらい」(33.8%)、「30～40分くらい」(27.3%)の“20～40分くらい”(61.1%→63.0%)が中心で、平均も「28.9分→26.3分」と、あまり変わりありません。

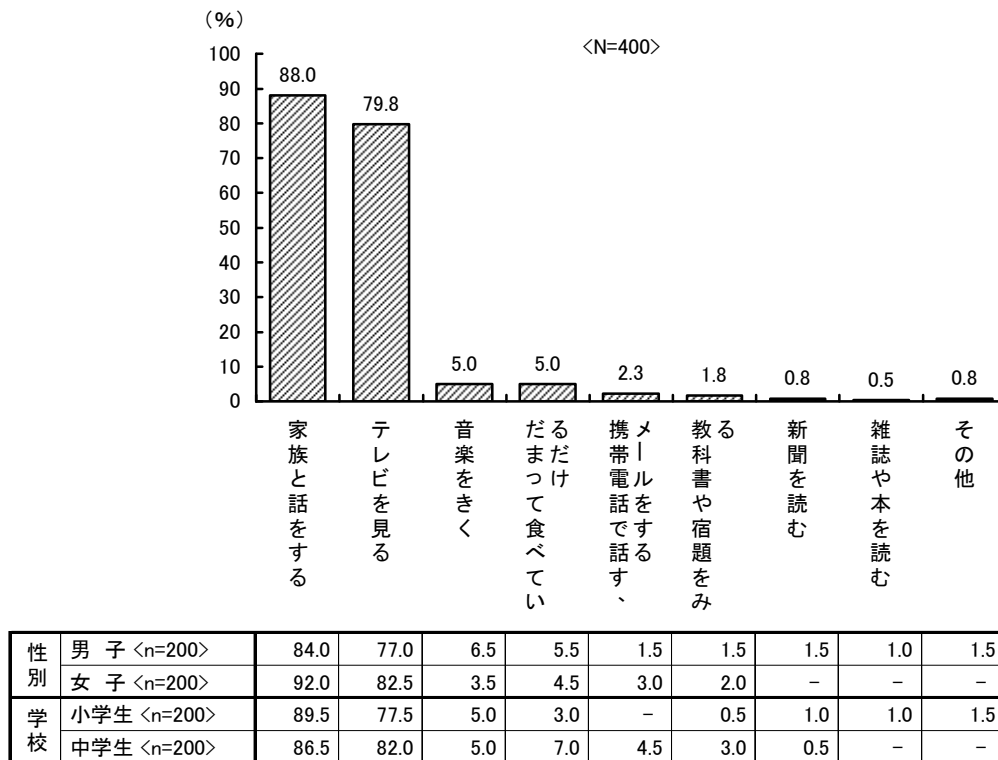
### Ⅲ 食事や料理に対する意識と実態

#### 1. 家で食事の時、どんなことをしているか

「家族と話をする」(88.0%)、あるいは「テレビを見る」(79.8%)が主。

●少数派では「携帯電話で話す、メールをする」(2.3%)や「だまって食べているだけ」(5.0%)も。

図 16. 家で食事の時どんなことをしているか（複数回答）



家で食事の時、どんなことをしているか聞いてみたところ、「家族と話をする」(88.0%)、そして「テレビを見る」(79.8%)が断然多くなっています。家族団らんは“テレビをみながら”というのが依然主流のようです。そのほか、少数派ですが「音楽をきく」「だまって食べているだけ」(各5.0%)、「携帯電話で話す、メールをする」(2.3%)といった人もみられます。

性別や学校別にみても、いずれも「家族と話をする」、あるいは「テレビを見る」が断然多くなっています。

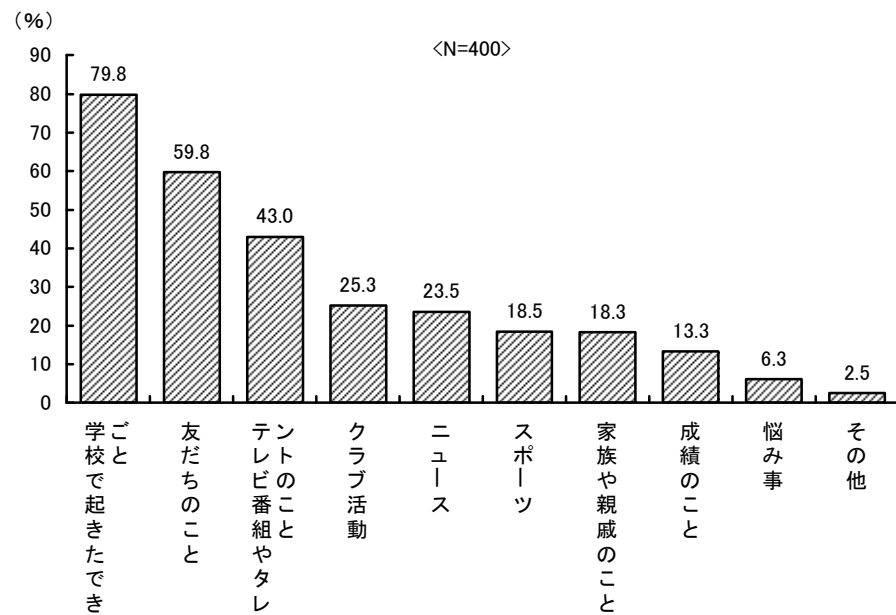
なお、「だまって食べているだけ」という割合は、《小学生》(3.0%)より《中学生》(7.0%)の方が高めです。また、「携帯電話で話す、メールをする」は《小学生》では皆無です(中学生は4.5%)。

◆前回の調査と比較すると、「家族と話をする」(86.0%→88.0%)、「テレビを見る」(77.8%→79.8)がより一層高率になっています。なお、まだ少数派ですが「携帯電話で話す、メールをする」が5.5%→2.3%と減少傾向です。

## 2. 家で食事の時、家族と話しているのはどんなことか

「学校で起きたできごと」(79.8%)、「友だちのこと」(59.8%)、「テレビ番組やタレントのこと」(43.0%)がトップ3。

図 17. 家で食事の時、家族と話している内容（複数回答）



性別	男子 <n=200>	76.5	52.5	39.0	23.0	27.0	27.0	16.5	11.0	6.5	3.5
	女子 <n=200>	83.0	67.0	47.0	27.5	20.0	10.0	20.0	15.5	6.0	1.5
学校	小学生 <n=200>	84.0	63.0	40.5	13.5	22.5	17.0	19.5	7.0	5.0	4.0
	中学生 <n=200>	75.5	56.5	45.5	37.0	24.5	20.0	17.0	19.5	7.5	1.0

前述のように食事の時は“家族と話をする”という人が断然多くなっていましたが、ここでは、その話の内容を聞いてみました。

その結果、「学校で起きたできごと」(79.8%)が最も多く、以下「友だちのこと」(59.8%)、「テレビ番組やタレントのこと」(43.0%)、やや差があって「クラブ活動」(25.3%)、「ニュース」(23.5%)、「スポーツ」(18.5%)、「家族や親戚のこと」(18.3%)が続いています。

性別にみても、いずれもトップ3は全体と同じ内容があげられていますが、その割合は《女子》の方が一層高率です。一方、「ニュース」、「スポーツ」は《男子》の方が高くなっています。

学校別にみても、いずれもトップ3は全体と同じ内容があげられています。

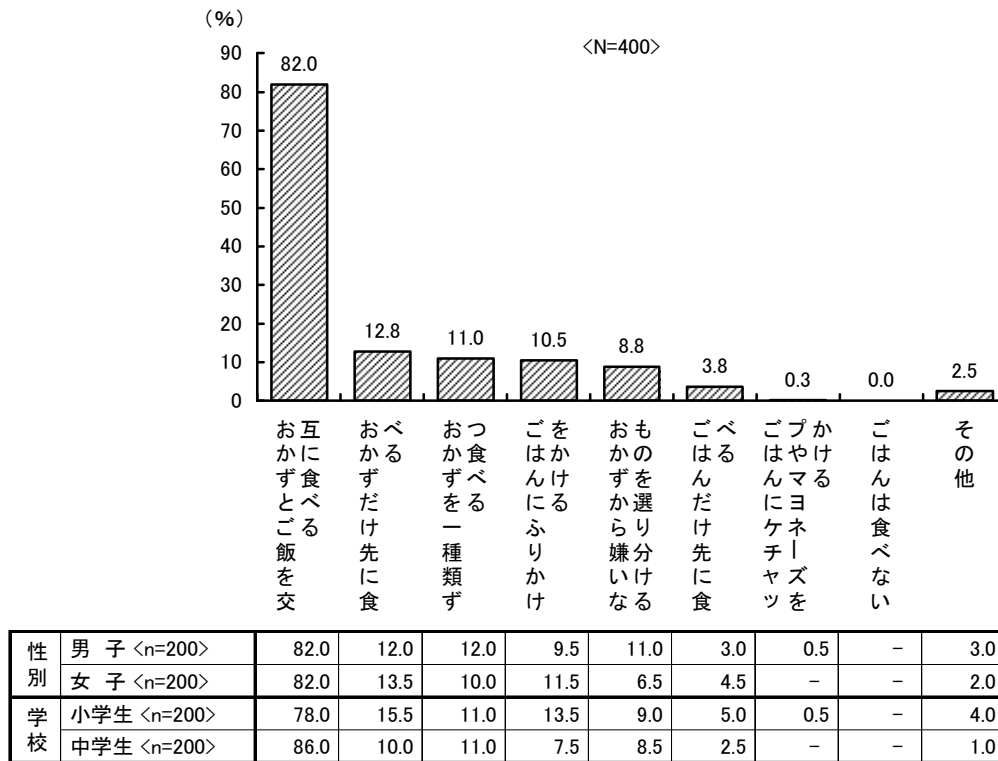
《小学生》の方が《中学生》より高いのは「学校で起きたできごと」、「友だちのこと」、反対に《中学生》の方が高くなっているのは「テレビ番組やタレントのこと」、「クラブ活動」、「ニュース」、「スポーツ」、「成績のこと」などです。特に、「クラブ活動」(小学生 13.5%、中学生 37.0%)、「成績のこと」(同 7.0%、19.5%)は両者に10ポイント以上の差があるのが目につきます。なお、「成績のこと」をあげる割合は、いずれも高学年ほど高くなっています。

◆前回の調査と比較すると、いずれも「学校で起きたできごと」(74.5%→79.8%)が最も多く、以下「友だちのこと」(59.5%→59.8%)、「テレビ番組やタレントのこと」(49.5%→43.0%)がトップ3にあげられています。

### 3. ふだん、「食事」をどのように食べているか

マナー通り「おかずとご飯を交互に食べる」(82.0%)ことが断然多いが、「おかずだけ先に食べる」(12.8%)、「おかずを種類ずつ食べる」(11.0%)、「ごはんにふりかけをかける」(10.5%)などのケースも。

図 18. ふだん、「食事」をどのように食べているか（複数回答）



ふだん、「食事」をどのように食べているか聞いてみたところ、「おかずとご飯を交互に食べる」(82.0%)と、マナー通り食べているケースが断然多くなっていますが、「おかずだけ先に食べる」(12.8%)、「おかずを種類ずつ食べる」(11.0%)、「おかずから嫌いなものを選び分ける」(8.8%)、「ごはんだけ先に食べる」(3.8%)といった例外ケースも少なからずみられます。また、「ごはんにふりかけをかける」という人も1割(10.5%)みられます。

性別にみると、いずれも「おかずとご飯を交互に食べる」という割合が共に8割強(82.0%)をはじめ、例外ケースの割合もあまり変わりありません。

学校別にみても、いずれも「おかずとご飯を交互に食べる」が断然多くなっていますが、その割合は《小学生》(78.0%)より《中学生》(86.0%)の方が一層高率です。全般的に例外ケースの割合は《小学生》の方が高めなのが目につきます。

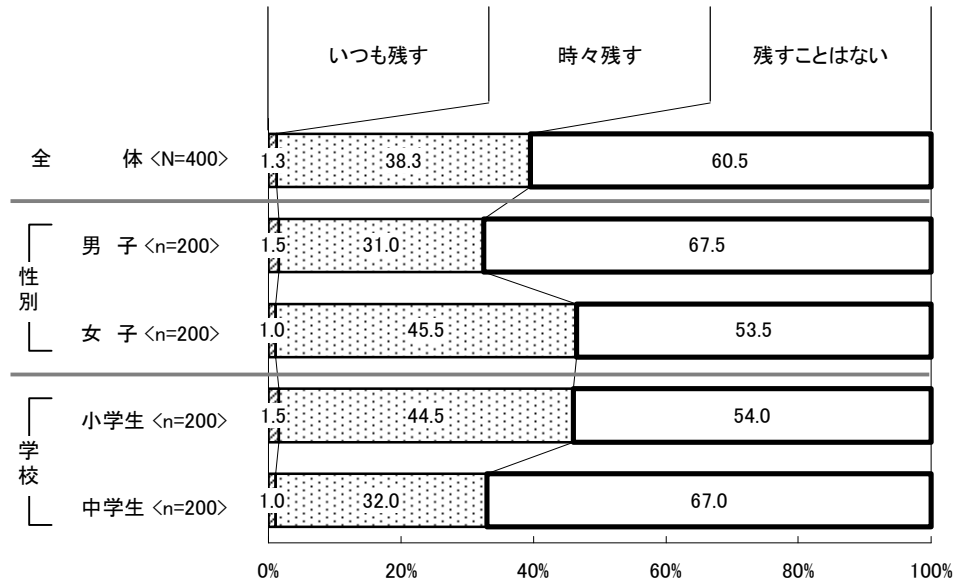
◆前回の調査と比較すると、「おかずとご飯を交互に食べる」と、マナー通り食べている割合が78.0%→82.0%と一層増えています。

#### 4. 食事を残すことがあるか

「いつも残す」(1.3%)、「時々残す」(38.3%)など、5人に2人が“残すことがある”(39.5%)。

●“残すことがある”割合は、《男子》(32.5%)より《女子》(46.5%)の方が高い。

図 19. 食事を残すこと



食事を「いつも残す」(1.3%)という人はまれですが、「時々残す」(38.3%)という人が相当数みられ、合わせて4割(39.5%)が“残すことがある”と答えています。

性別にみると、“残すことがある”割合は、《男子》(32.5%)より《女子》(46.5%)の方が14ポイント高くなっています。

学校別では、《中学生》(33.0%)より《小学生》(46.0%)の方が高くなっています。

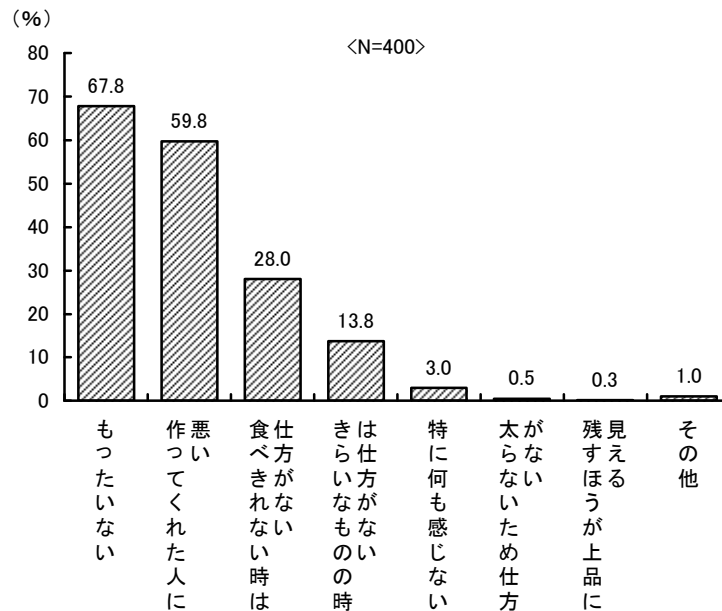
なお、《小学生の女子》では“残すことがある”(49.0%)と「残すことはない」(51.0%)にほぼ二分されているのが目につきます。また、《中学生女子》では“残すことがある”割合(44.0%)が《中学生男子》(22.0%)の2倍の値を示しています。

◆前回の調査と比較すると、“残すことがある”割合が42.5%→39.5%と減少しています。“食べものを粗末にしない”という意識が年々強くなりつつあるようです。

## 5. 食事を残すことについてどう思うか

「もったいない」(67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(59.8%)など“罪悪感”を持っている人が多い半面、「食べきれない時は仕方がない」(28.0%)、「きれいなもののは仕方がない」(13.8%)など“仕方がない”という見解も少なからずみられる。

図 20. 食事を残すことについてどう思うか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	68.0	58.0	22.5	14.5	4.0	-	-	1.0
女子 <n=200>	67.5	61.5	33.5	13.0	2.0	1.0	0.5	1.0	
学校	小学生 <n=200>	64.0	58.5	29.0	13.0	3.5	0.5	-	2.0
	中学生 <n=200>	71.5	61.0	27.0	14.5	2.5	0.5	0.5	-
残すこと	ある <n=158>	48.7	48.1	43.7	23.4	4.4	1.3	-	0.6
	<いつも> <n=5>	60.0	20.0	40.0	-	-	-	-	-
	<時々> <n=153>	48.4	49.0	43.8	24.2	4.6	1.3	-	0.7
	ない <n=242>	80.2	67.4	17.8	7.4	2.1	-	0.4	1.2

では、食事を残すことについてどう思っているのでしょうか。

「もったいない」(67.8%)、あるいは「作ってくれた人に悪い」(59.8%)と、残すことに“罪悪感”を抱いている人が多くなっていますが、半面「食べきれない時は仕方がない」(28.0%)、「きれいなもののは仕方がない」(13.8%)など、“仕方がない”という人も少なからずみられます。中には「特に何も感じない」(3.0%)という人も少数います。

性別や学校別にみても、いずれも「もったいない」、あるいは「作ってくれた人に悪い」と思っている人が多くなっていますが、《小学生》より《中学生》の方がより一層“罪悪感”を抱いている割合が高くなっています。

また、前項で食事を“残すことはない”人では「もったいない」(80.2%)、あるいは「作ってくれた人に悪い」(67.4%)という割合がいずれも過半数を占めていますが、“残すことがある”人（順に 48.7%、48.1%）ではいずれも半数に達していません。

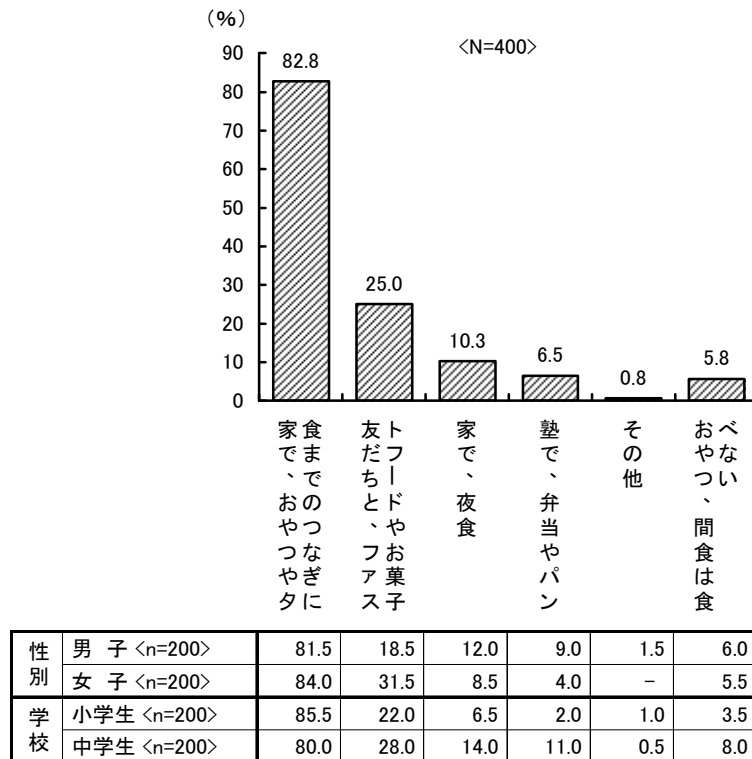
◆前回の調査と比較すると、「もったいない」(75.0%→67.8%)、「作ってくれた人に悪い」(63.5%→59.8%)と減少傾向にあります。依然罪悪感意識は強いようです。



## 6. 毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」をいつ食べているか

間食を“食べる”(94.3%)人が大半で、時間帯としては「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(82.8%)が断然多い。

図 21. 毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」を、どんな時に食べているか（複数回答）



毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」をいつ食べているかをみると、「おやつ、間食は食べない」(5.8%)という人は少数派で、大半の人は“食べる”(94.3%)と答えています。その時間帯としては、「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(82.8%)が断然多くなっています。そのほかでは「友達と、ファストフードやお菓子」(25.0%)、「家で、夜食」(10.3%)、「塾で、弁当やパン」(6.5%)があげられています。

なお、「塾で、弁当やパン」を《塾に通っている》人(214人)に限ってみた割合は1割強(12.1%)です。

性別や学校別にみても、いずれも大半が間食を“食べる”と答えています。食べる時間帯で「家で、おやつや夕食までのつなぎに」の割合は、《男子》(81.5%)より《女子》(84.0%)、《中学生》(80.0%)より《小学生》(85.5%)の方が高めです。

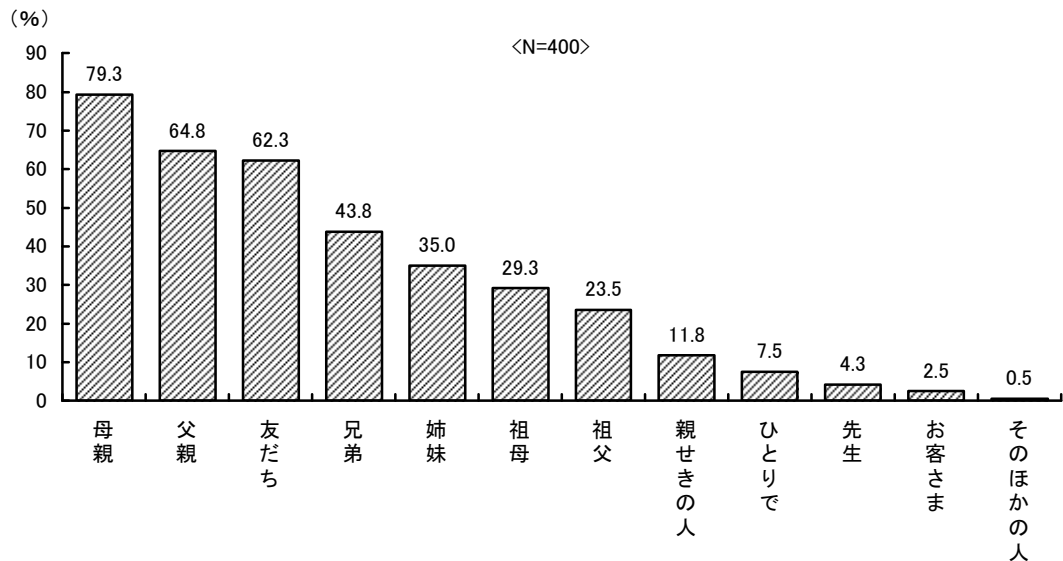
また、「友達と、ファストフードやお菓子」は《男子》(18.5%)より《女子》(31.5%)、《小学生》(22.0%)より《中学生》(28.0%)の方が高くなっています。

◆前回の調査と比較すると、前回も、大半の人は“食べる”(95.3%→94.3%)と答えており、その時間帯も「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(81.0%→82.8%)が断然多くなっています。

## 7. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか

「母親」(79.3%)がトップ。次いで「兄弟」「姉妹」を合わせた“兄弟・姉妹”(67.8%)、「父親」(64.8%)が続く。

図 22. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	75.5	63.0	58.0	50.0	28.5	26.5	23.5	12.0	8.0	3.5	2.0	0.5
女性	女子 <n=200>	83.0	66.5	66.5	37.5	41.5	32.0	23.5	11.5	7.0	5.0	3.0	0.5
学校	小学生 <n=200>	84.5	70.0	61.0	46.0	35.0	37.0	28.0	14.0	5.0	7.5	4.0	0.5
	中学生 <n=200>	74.0	59.5	63.5	41.5	35.0	21.5	19.0	9.5	10.0	1.0	1.0	0.5

食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか聞いてみたところ、「母親」(79.3%)が最も多く、以下「兄弟」(43.8%)、「姉妹」(35.0%)など“兄弟・姉妹”(67.8%)、「父親」(64.8%)、「友だち」(62.3%)、「祖母」(29.3%)、「祖父」(23.5%)など“祖父・祖母”(30.3%)、「親せきの人」(11.8%)の順となっています。

性別にみると、いずれも「母親」が最も多くなっていますが、全般的に《男子》より《女子》の方が高率を示している項目が多く、一緒に食べると楽しい相手は《女子》の方が多岐にわたっていることがうかがえます。

学校別にみると、いずれも「母親」がトップですが、全般的に《中学生》より《小学生》の方が高率を示している項目が目立ちます。

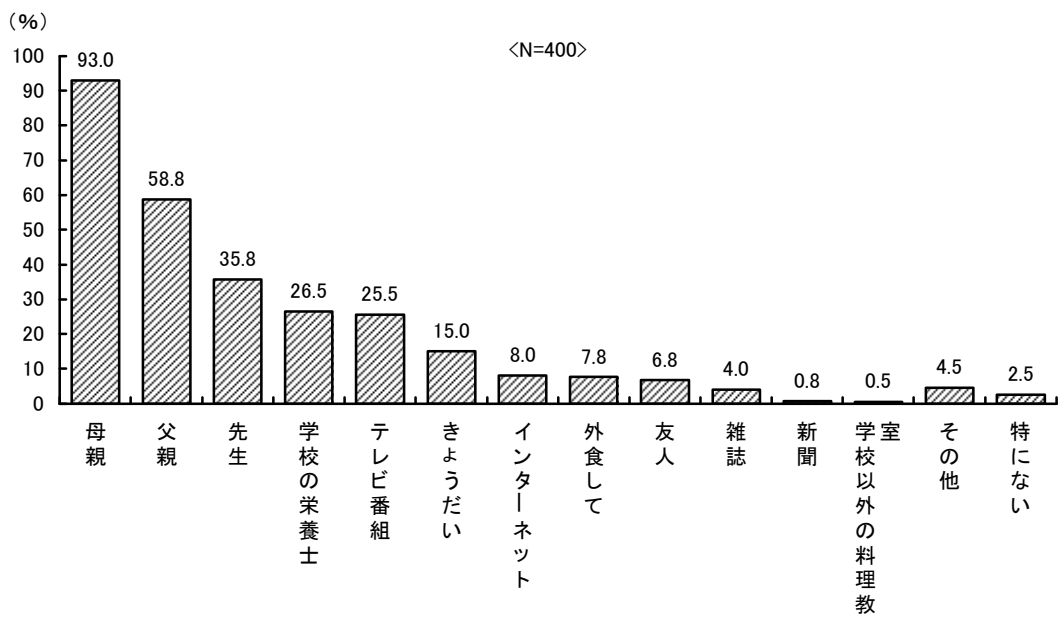
◆前回の調査と比較すると、「母親」(71.5%→79.3%)、「兄弟・姉妹」(67.3%→67.8%)、「父親」(54.8%→64.8%)など、“家族の絆”が大切とされているなか、家族と一緒に食べると楽しいという割合が増加傾向にあります。なお、「父親」が10ポイント増えているのが目立ちます。

# IV “食”に関するしつけの意識と実態

## 1. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか

「母親」(93.0%)がトップ、第2位に「父親」(58.8%)と、“両親の教え”が第一。以下「先生」(35.8%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(25.5%)の順。

図 23. 料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	母親	父親	先生	学校の栄養士	テレビ番組	きょうだい	インターネット	外食して	友人	雑誌	新聞	学校以外の料理教	その他	特にない
男子 <n=200>	92.5	58.5	35.0	23.0	21.5	14.0	5.5	5.5	6.0	1.5	0.5	-	3.5	3.0	
女子 <n=200>	93.5	59.0	36.5	30.0	29.5	16.0	10.5	10.0	7.5	6.5	1.0	1.0	5.5	2.0	

これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人やどんな方法から学んできたかをみると、「母親」(93.0%)からが断然多く、次いで「父親」(58.8%)が続き、“両親”から学んできた人が圧倒的に多くなっています。以下「先生」(35.8%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(25.8%)、「きょうだい」(15.0%)が続いています。

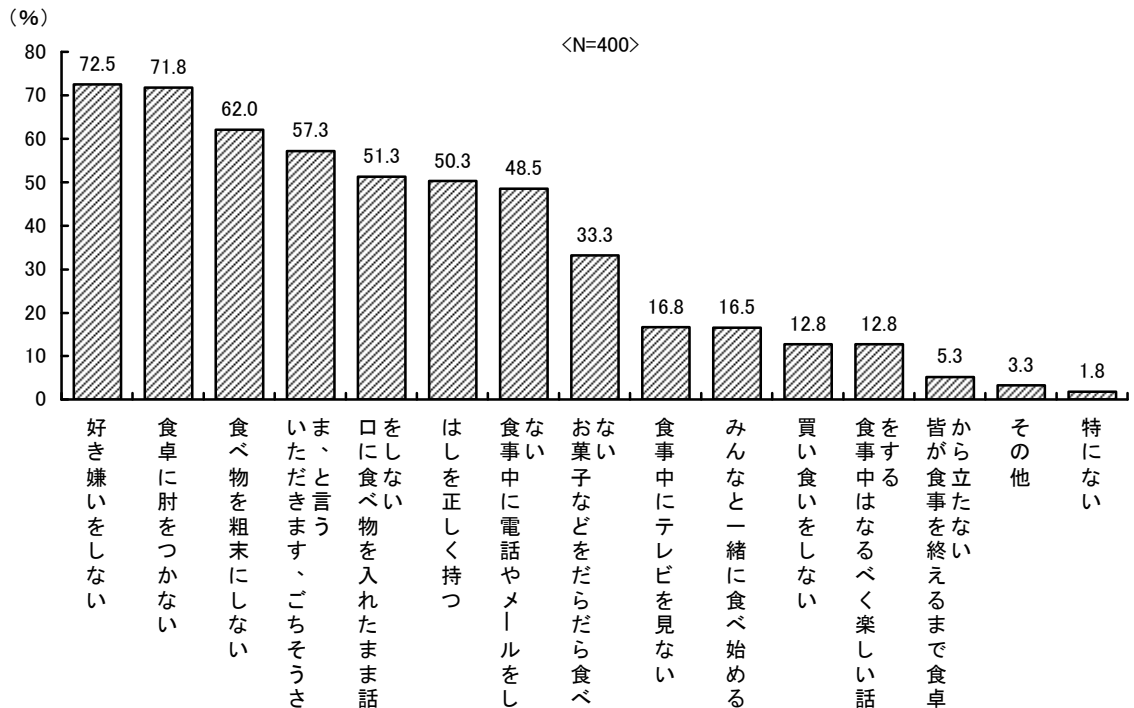
性別にみても、いずれも「母親」が断然トップをはじめ、上位にあげられている項目は全体と変わりませんが、全般的に《女子》の方が高率を示している項目が多く、《女子》の方がいろいろな人や方法から学んでいることがうかがえます。

◆前回の調査と比較すると、いずれも「母親」(91.3%→93.0%)が断然多く、次いで「父親」(55.5%→58.8%)、「先生」(36.5%→35.8%)、「学校の栄養士」(26.5%→26.5%)、「テレビ番組」(24.8%→25.5%)の順で、その割合もあまり変動はありません。なお、「インターネット」(2.0%→8.0%)の増加が目立ちます。

## 2. 家で食べ物や食事について、守るように言われていること

「好き嫌いをしない」(72.5%)、「食卓に肘をつかない」(71.8%)、「食べ物を粗末にしない」(62.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(57.3%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(51.3%)、「はしを正しく持つ」(50.3%)、「食事中に電話やメールをしない」(48.5%)など、“しつけられた”ことは多岐にわたる。

図 24. 家で食べ物や食事について、守るように言われていること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	80.0	70.5	64.0	57.0	52.5	52.0	47.5	30.0	18.0	15.5	14.5	12.5	6.0	2.5	1.0
	女子 <n=200>	65.0	73.0	60.0	57.5	50.0	48.5	49.5	36.5	15.5	17.5	11.0	13.0	4.5	4.0	2.5
学校	小学生 <n=200>	78.5	76.0	62.5	66.5	55.5	54.5	37.0	36.5	22.0	21.0	17.5	16.0	6.5	4.0	1.0
	中学生 <n=200>	66.5	67.5	61.5	48.0	47.0	46.0	60.0	30.0	11.5	12.0	8.0	9.5	4.0	2.5	2.5

食べ物や食事について、家で“しつけ面”から守るように言われていることは、「好き嫌いをしない」(72.5%)が最も多く、差なく「食卓に肘をつかない」(71.8%)、以下「食べ物を粗末にしない」(62.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(57.3%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(51.3%)、「はしを正しく持つ」(50.3%)、が続き、この6つについては半数以上の割合となっています。また、「食事中に電話やメールをしない」(48.5%)もほぼ半数の割合となっています。「特になし」(1.8%)という人はごく少数で、大半の人(98.3%)が、いろいろなことを守るように言われています。

性別にみると、《男子》は「好き嫌いをしない」(80.0%)、《女子》は「食卓に肘をつかない」(73.0%)が最も多くなっていますが、上位にあげられている項目は全体とあまり変わりません。

学校別にみても、《小学生》は「好き嫌いをしない」(78.5%)、《中学生》は「食卓に肘をつかない」(67.5%)が最も多くなっていますが、上位にあげられている項目は全体とあまり変わりません。また、全般的に《小学生》の方が高率を示している項目が多くなっていますが、「食事中に電話やメールをしない」と言われている割合は《小学生》(37.0%)より《中学生》(60.0%)の方が23ポイント高くなっているのが目立ちます。

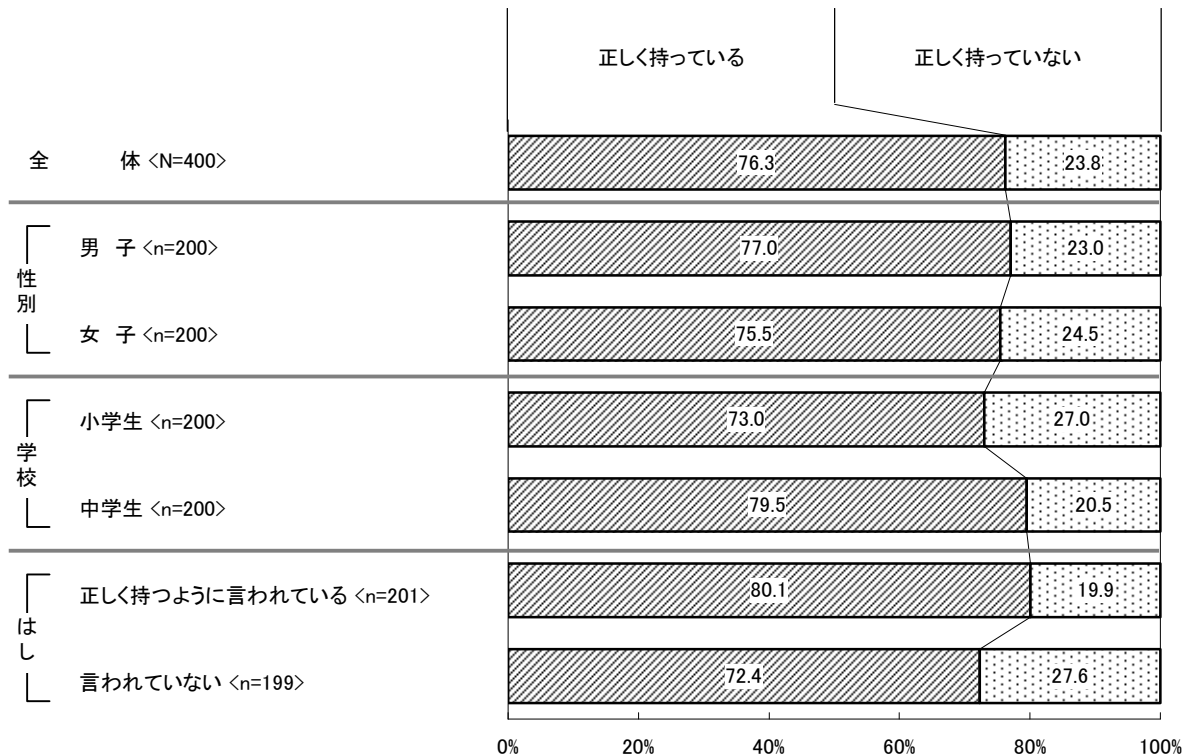
◆前回の調査と比較すると、「好き嫌いをしない」(66.3%→72.5%)が増え、「食卓に肘をつかない」(72.0%→71.8%)を抜いてトップになっていますが、上位にあげられている項目は前回と同じです。なお、「食事中に電話やメールをしない」(34.0%→48.5%)が15ポイントほど増えているのが目につきます。

### 3. 『おはし』を正しく持っているか

自己判断の結果、4人に3人強(76.3%)が「正しく持っている」。

●「正しく持っている」割合は、《男子》が77.0%、《女子》は75.5%。

図 25. 『おはし』を正しく持っているか【イラスト参照】



『おはし』を正しく持っているか、【イラスト参照】を参照して自己判断してもらいました。

その結果、「正しく持っている」という人は76.3%と4人に3人強の割合です。

性別にみると、「正しく持っている」という割合は、《男子》が77.0%、《女子》が75.5%とあまり差はありません。

学校別では、《小学生》(73.0%)より《中学生》(79.5%)の方が高めです。

なお、小学生では《男子》(70.0%)より《女子》(76.0%)の方が高くなっていますが、中学生では《女子》(75.0%)、《男子》(84.0%)と、逆転しています。

また、前項で“はしを正しく持つ”ように《言われている人》は「正しく持っている」割合が8割(80.1%)と、《言われていない人》(72.4%)より8ポイントほど高くなっています。

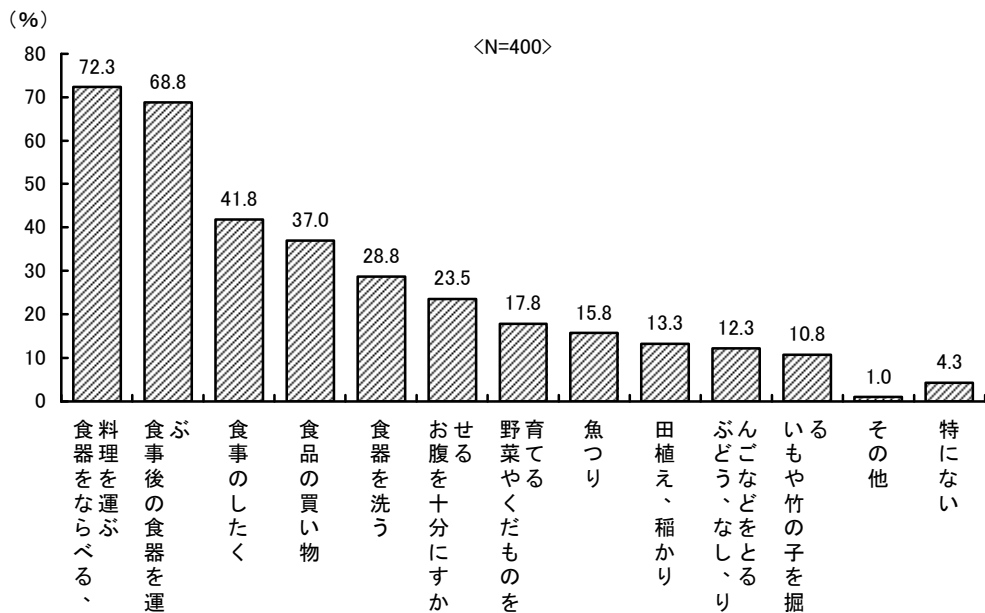
◆前回の調査と比較すると、「正しく持っている」割合は72.5%→76.3%と、7割台を維持しています。

#### 4. 食べ物や食事について、行ってきたこと

「食器をならべる、料理を運ぶ」(72.3%)、「食事後の食器を運ぶ」(68.8%)、「食事のしたく」(41.8%)がトップ3。

●「食器をならべる、料理を運ぶ」など“食卓(食事)まわり”のことは、《女子》の方が経験率は高い。

図 26. 食べ物や食事について、行ってきたこと (複数回答)



性別	男子 <n=200>	64.0	64.5	33.0	29.0	22.5	28.5	15.5	17.0	10.5	13.5	11.0	1.0	4.5
女子 <n=200>	80.5	73.0	50.5	45.0	35.0	18.5	20.0	14.5	16.0	11.0	10.5	10.5	1.0	4.0

食べ物や食事について、これまで行ってきたことを聞いたところ、「食器をならべる、料理を運ぶ」(72.3%)が最も多く、次いで「食事後の食器を運ぶ」(68.8%)、「食事のしたく」(41.8%)、「食品の買い物」(37.0%)、「食器を洗う」(28.8%)など、“食卓(食事)まわり”のことが上位にあげられています。そのほか「お腹を十分にすかせる」(23.5%)、「野菜やくだものを育てる」(17.8%)、「魚つり」(15.8%)、「田植え、稲かり」(13.3%)など、いろいろなことを経験しているようです。

性別にみると、「食器をならべる、料理を運ぶ」(男子64.0%、女子80.5%)、「食事後の食器を運ぶ」(同64.5%、73.0%)など、“食卓(食事)まわり”のことは《男子》より《女子》の方が高率を示している項目が多く、《女子》の方がいろいろな“食卓(食事)まわり”のことを経験していることがうかがえます。

学校別にみても、いずれもトップ3は「食器をならべる、料理を運ぶ」、「食事後の食器を運ぶ」、「食事のしたく」があげられています。

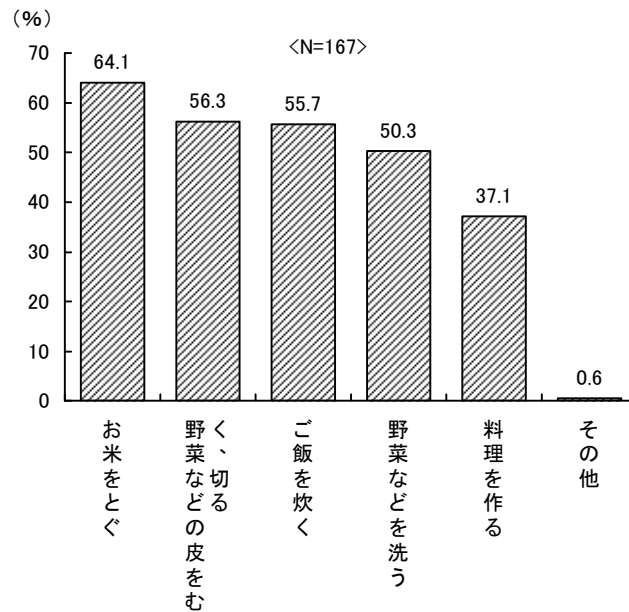
◆前回の調査と比較すると、前回はトップ3は同じで、「食器をならべる、料理を運ぶ」(67.0%→72.3%)、「食事後の食器を運ぶ」(61.8%→68.8%)、「食事のしたく」(49.0%→41.8%)があげられています。

#### 4-1. 『食事のしたく』でしていること

「お米をとぐ」(64.1%)、「野菜などの皮をむく、切る」(56.3%)、「ご飯を炊く」(55.7%)、「野菜などを洗う」(50.3%)、「料理を作る」(37.1%)など、“食事のしたく”はいろいろ。

●“作る料理”は、「カレー」(22件)が突出して多く、以下「野菜炒め」(9件)、「卵焼き」(7件)、「味噌汁」(6件)、「ギョウザ」(5件)、「サラダ」(5件)、「チャーハン」(5件)など。

図 27. 『食事のしたく』でしていること（複数回答）



性別	男子 <n=66>	60.6	42.4	56.1	39.4	37.9	-
女子 <n=101>	66.3	65.3	55.4	57.4	36.6	1.0	
学校	小学生 <n=94>	56.4	63.8	54.3	51.1	39.4	1.1
中学生 <n=73>	74.0	46.6	57.5	49.3	34.2	-	

“食事のしたく”をする人（167人）に、どんなことをしているか聞いてみたところ、「お米をとぐ」（64.1%）が最も多く、以下「野菜などの皮をむく、切る」（56.3%）、「ご飯を炊く」（55.7%）、「野菜などを洗う」（50.3%）、「料理を作る」（37.1%）が続いています。

性別にみると、《男子》では「お米をとぐ」（60.6%）、「ご飯を炊く」（56.1%）、「野菜などの皮をむく、切る」（42.4%）が、《女子》は「お米をとぐ」（66.3%）、「野菜などの皮をむく、切る」（65.3%）、「野菜などを洗う」（57.4%）がそれぞれトップ3です。なお、「ご飯を炊く」や「料理を作る」をあげる割合が男女間で差がみられないのは注目されます。



表 2. 食事のしたくで作った料理（自由回答：複数回答）

順位		件数	男子	女子
1	カレー	22	7	15
2	野菜炒め	9	3	6
3	卵焼き	7	2	5
4	味噌汁	6	1	5
5	ギョウザ	5	2	3
	サラダ	5	1	4
	チャーハン	5	3	2
8	スクランブルエッグ	4	2	2
	ハンバーグ	4	1	3
	ホットケーキ	4	1	3
	目玉焼き	4	3	1
	焼きそば	4	2	2
13	ウインナー	3	2	1
	オムライス	3	1	2
	その他	27	10	17

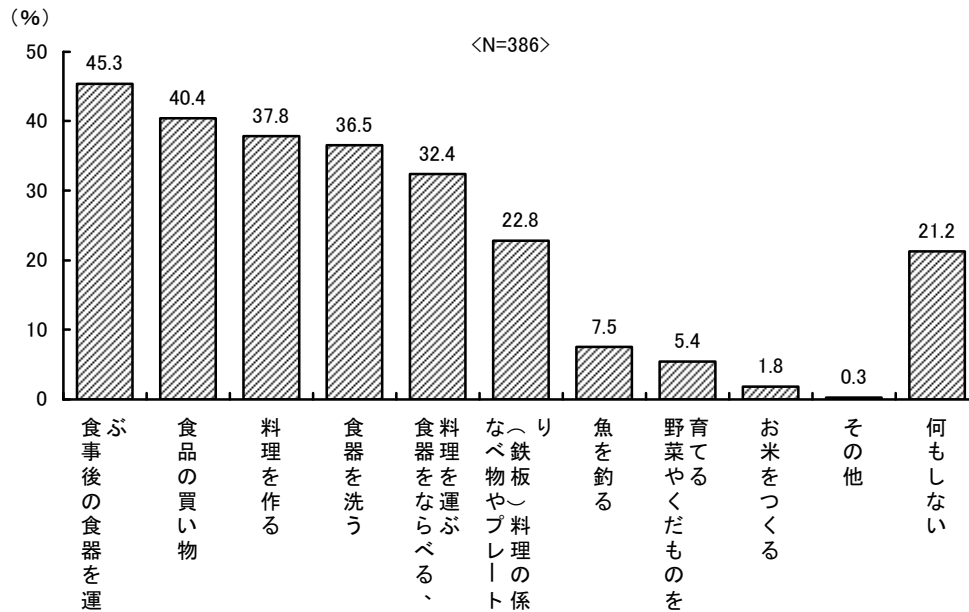
“料理を作る”という人（62人）に、どんな料理を作っているのかをみると、「カレー」（22件）が突出して多くなっています。以下、「野菜炒め」（9件）、「卵焼き」（7件）、「味噌汁」（6件）、「ギョウザ」（5件）、「サラダ」（5件）、「チャーハン」（5件）などがあげられています。

性別にみると、「カレー」（男子7件、女子15件）、「野菜炒め」（同3件、6件）、「卵焼き」（同2件、5件）、「味噌汁」（同1件、5件）など、全般的に《女子》の方が多くあげている項目が多くなっています。

## 5. 食べ物や食事について、父親はどんなことをしているか

8割弱(78.8%)の父親が、「食事後の食器を運ぶ」(45.3%)、「食品の買い物」(40.4%)、「料理を作る」(37.8%)、「食器を洗う」(36.5%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(32.4%)などを行っている。

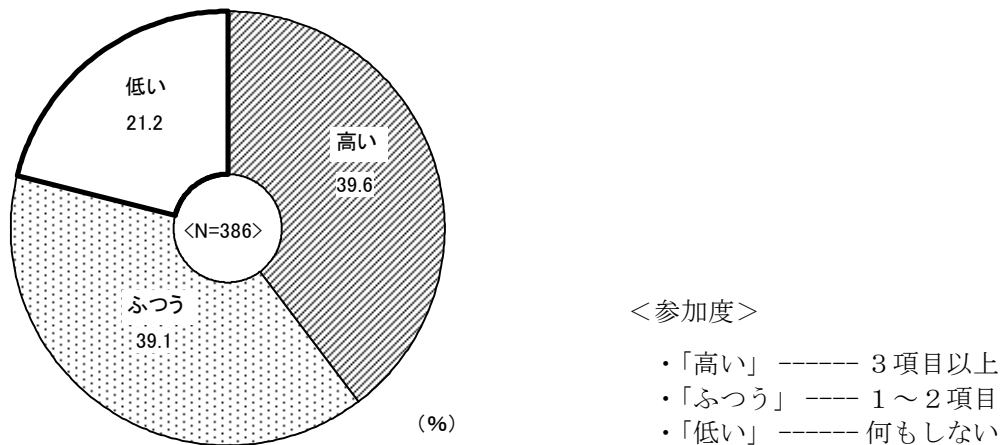
図 28. 食べ物や食事について、父親がしていること（父親がいる家庭：複数回答）



父親のいる子ども（386人）に、食べ物や食事について父親はどんなことをしているか聞いてみたところ、「何もしない」という人は2割強（21.2%）で、残りの8割弱（78.8%）が何らかのことをしているとみえています。

その内容は、「食事後の食器を運ぶ」（45.3%）がトップ、以下「食品の買い物」（40.4%）、「料理を作る」（37.8%）、「食器を洗う」（36.5%）、「食器をならべる、料理を運ぶ」（32.4%）、「なべ物やプレート料理の係」（22.8%）が続いています。少数派としては「魚を釣る」（7.5%）、「野菜やくだものを育てる」（5.4%）、「お米をつくる」（1.8%）があげられています。

図 29. 父親の家事参加度



上記で父親がしていることの数から“家事参加度”をみると、10項目中3項目以上している「高い」にランクされる父親は39.6%と5人に2人の割合となっています。

ランクが「高い」父親の7割以上は、「食品の買い物」(82.4%)、「食事後の食器を運ぶ」(73.2%)、「料理を作る」「食器を洗う」(各75.8%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(69.9%)をしています。

◆前回の調査と比較すると、「何もしない」という割合が26.1%→21.2%とダウンしており、子供がみた父親の“家事参加度”はアップしているようです。今回上位にあげられている「食事後の食器を運ぶ」(35.8%→45.3%)、「食品の買い物」(35.8%→40.4%)、「料理を作る」(35.5%→37.8%)、「食器を洗う」(32.1%→36.5%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(23.5%→32.4%)はいずれも比率がアップしています。また、“家事参加度”が「高い」父親が33.9%→39.6と6ポイントほど増え、父親の“家事参加度”は着実に高くなっているようです。

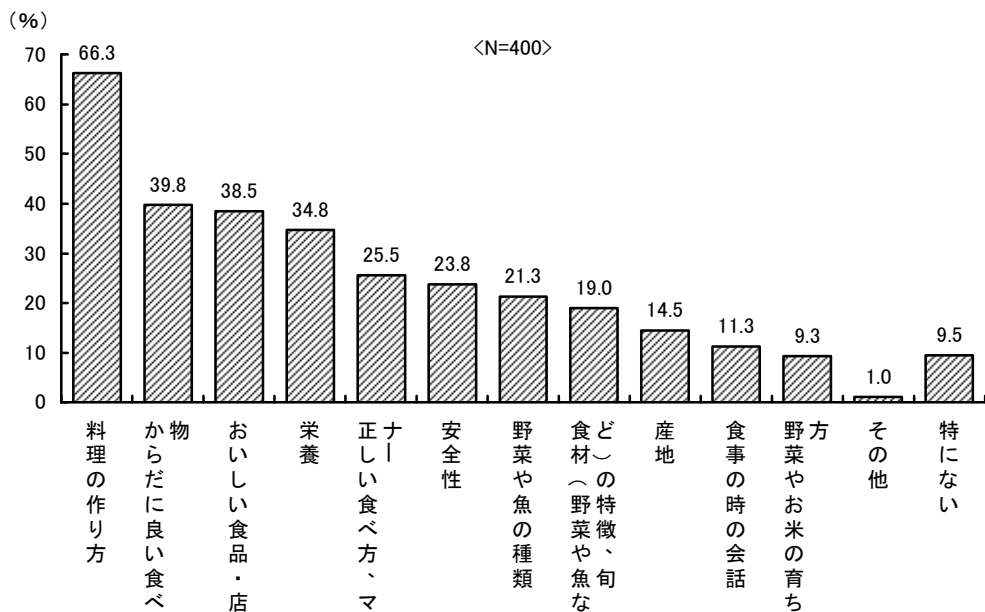
## V “食”に関する意識と実態

### 1. “食”について、知りたいと思っていること・関心があること

「料理の作り方」(66.3%)が第一。以下「からだに良い食べ物」(39.8%)、「おいしい食品・店」(38.5%)、「栄養」(34.8%)、「正しい食べ方、マナー」(25.5%)、「安全性」(23.8%)などに関心がある。

●《女子》の5人に4人(80.0%)が「料理の作り方」に関心があるが、《男子》でも半数強(52.5%)。

図 30. 料理や食べ物、食べ方について、知りたいと思っていること・関心をもっていること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	52.5	39.0	38.0	35.0	24.5	27.5	22.0	21.0	16.5	9.0	8.5	0.5	15.0
	女子 <n=200>	80.0	40.5	39.0	34.5	26.5	20.0	20.5	17.0	12.5	13.5	10.0	1.5	4.0
学校	小学生 <n=200>	69.0	36.0	37.0	32.5	24.5	21.5	24.0	20.0	19.0	12.0	12.5	1.0	8.5
	中学生 <n=200>	63.5	43.5	40.0	37.0	26.5	26.0	18.5	18.0	10.0	10.5	6.0	1.0	10.5

料理や食べ物、食べ方など“食”について、日頃から知りたいと思っていることや、関心をもって見聞きしていることはどんなことか聞いてみたところ、「特にない」(9.5%)という人もいますが、残りの9割(90.5%)は“何らかに関心がある”と答えています。“食”に関する関心の高さがうかがわれます。

どんなことかをみると、「料理の作り方」(66.3%)をあげる人が群を抜いて多く、以下「からだに良い食べ物」(39.8%)、「おいしい食品・店」(38.5%)、「栄養」(34.8%)、「正しい食べ方、マナー」(25.5%)、「安全性」(23.8%)、「野菜や魚の種類」(21.3%)が続いています。

性別にみても、いずれも「料理の作り方」が最も多く、その割合は《女子》では8割(80.0%)と高率ですが、《男子》でも52.5%と半数を超えています。そのほか上位にあげられている項目は全体とかわりませんが、「安全性」をあげる割合が《女子》(20.0%)より《男子》(27.5%)の方が8ポイントほど高くなっているのが目につきます。

学校別にみると、いずれも「料理の作り方」が6割台でトップをはじめ、上位にあげられている項目は全体と変

わりません。

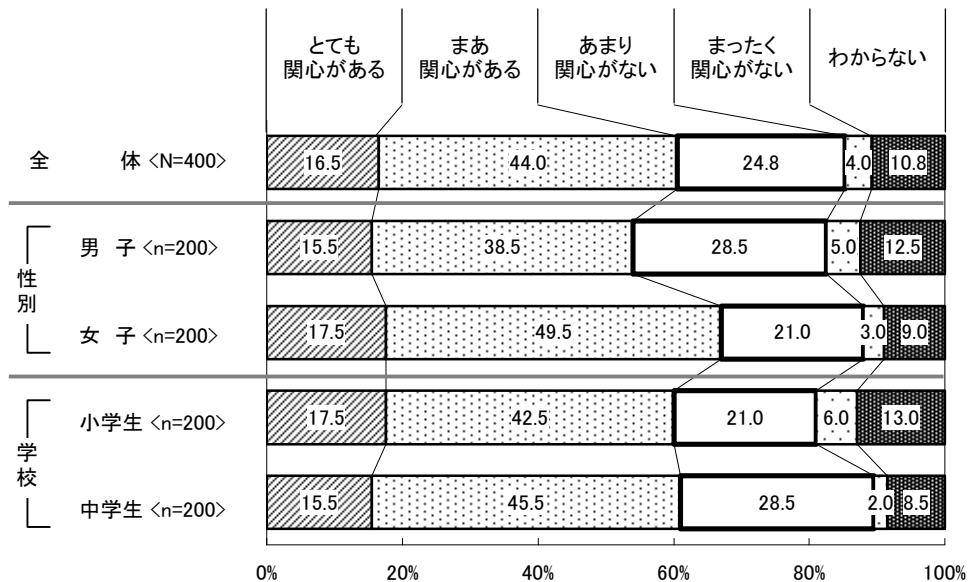
- ◆前回の調査と比較すると、前回も同じ項目がトップ3にあげられています。トップの「料理の作り方」は71.8%→66.3%と比率を下げっていますが、依然、料理への関心・興味度は高いようです。続く「からだに良い食べ物」(35.8%→39.8%)、「おいしい食品・店」(35.5%→38.5%)、「栄養」(29.8%→34.8%)、「正しい食べ方・マナー」(21.5%→25.5%)などは、いずれも増加傾向にあります。

## 2. “食の安全” への関心度

「とても関心がある」(16.5%)、「まあ関心がある」(44.0%)を合わせて、5人に3人が“関心がある”(60.5%)。

●“関心がある”ことは、「異物混入」(50.0%)、「保存期間」(40.1%)、「食品添加物」(38.4%)がトップ3。

図 31. “食の安全” ということに、どのくらい関心があるか



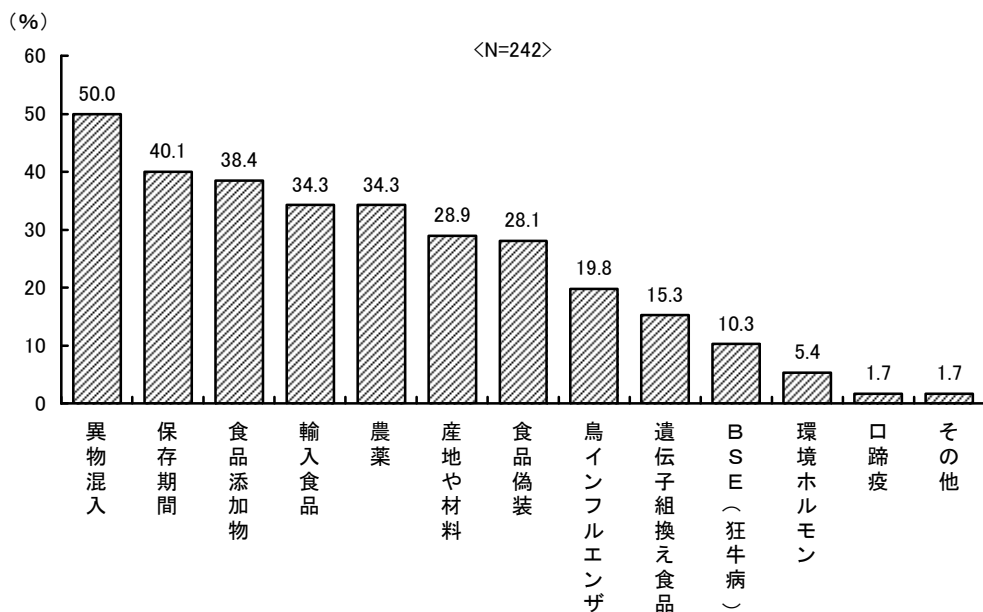
“食の安全” ということに、どのくらい関心があるか聞いてみたところ、「とても関心がある」(16.5%) という人は1割台にとどまっていますが、「まあ関心がある」(44.0%) が4割強みられ、合わせて“関心がある”(60.5%) という人が5人に3人の割合となっています。

性別にみると、“関心がある”割合は《男子》(54.0%) より《女子》(67.0%) の方が13ポイント高くなっています。

学校別では、《小学生》が60.0%、《中学生》が61.0%と、同程度の関心度です。

◆前回の調査と比較すると、“関心がある”割合が58.3%→60.5%となっており、“食の安全” に対する関心度は確実にアップしているようです。

図 32. 関心があるのはどんなことか（複数回答）



性別	男子 <n=108>	50.9	40.7	40.7	36.1	38.9	29.6	32.4	24.1	13.9	12.0	4.6	3.7	3.7
	女子 <n=134>	49.3	39.6	36.6	32.8	30.6	28.4	24.6	16.4	16.4	9.0	6.0	-	-
学校	小学生 <n=120>	53.3	39.2	25.0	30.8	34.2	28.3	20.8	20.8	7.5	6.7	4.2	0.8	0.8
	中学生 <n=122>	46.7	41.0	51.6	37.7	34.4	29.5	35.2	18.9	23.0	13.9	6.6	2.5	2.5

“関心派”（242人）がどんなことに関心があるのかをみると、「異物混入」（50.0%）が最も多く、以下「保存期間」（40.1%）、「食品添加物」（38.4%）、「輸入食品」「農薬」（各34.3%）、「産地や材料」（28.9%）、「食品偽装」（28.1%）が続いています。

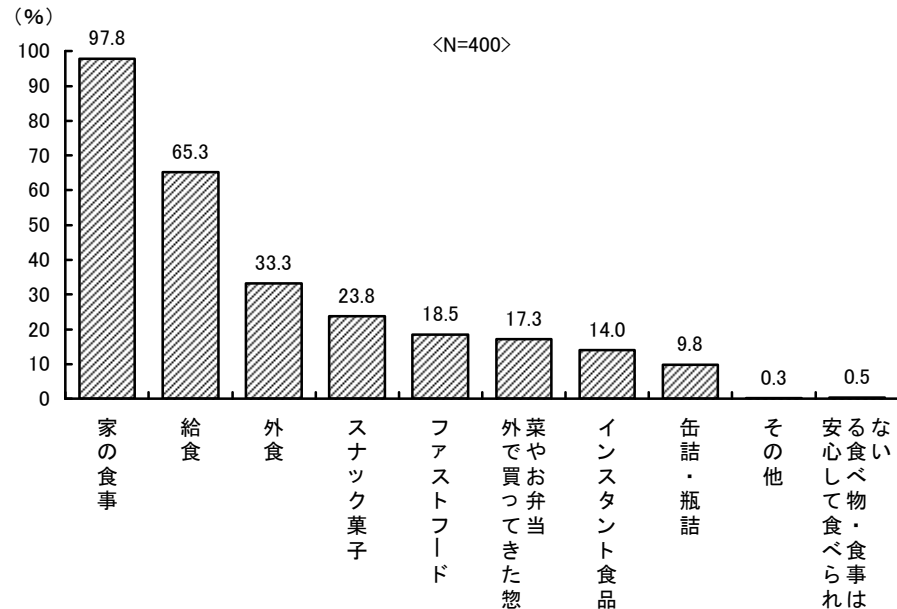
性別にみると、いずれも「異物混入」、「保存期間」、「食品添加物」がトップ3です。また、全般的に《男子》の方がやや高率を示している項目が多くなっています。

学校別にみると、《小学生》では「異物混入」（53.3%）がトップですが、《中学生》では「食品添加物」（51.6%）が《小学生》（25.0%）に比べ27ポイントほど高く、第一の関心事になっています。また、「食品偽装」（小学生20.8%、中学生35.2%）、「遺伝子組み換え食品」（同7.5%、23.0%）の差も目立ちます。

### 3. ふだん“安心して食べられる”のは、どんな食べ物・食事が

「家の食事」(97.8%)は当然だが、以下「給食」(65.3%)、「外食」(33.3%)、「スナック菓子」(23.8%)、「ファストフード」(18.5%)、「外で買ってきた惣菜やお弁当」(17.3%)が続く。

図 33. ふだん安心して食べられる食べ物・食事（複数回答）



性別	男子 <n=200>	97.5	70.5	34.0	25.5	23.5	21.0	17.0	10.5	-	1.0
	女子 <n=200>	98.0	60.0	32.5	22.0	13.5	13.5	11.0	9.0	0.5	-
学校	小学生 <n=200>	97.5	77.5	34.5	24.0	15.0	16.0	13.5	9.5	-	0.5
	中学生 <n=200>	98.0	53.0	32.0	23.5	22.0	18.5	14.5	10.0	0.5	0.5

ふだん“安心して食べられる”のは、どんな食べ物・食事が聞いてみたところ、大半の人は「家の食事」(97.8%)をあげています。次いで「給食」(65.3%)があげられ、この2つが半数以上の支持を得ています。以下「外食」(33.3%)、「スナック菓子」(23.8%)、「ファストフード」(18.5%)、「外で買ってきた惣菜やお弁当」(17.3%)が続いています。

「家の食事」以外を性別にみると、全般的に《男子》の方が《女子》より高率を示している項目が多くなっています。特に「給食」(男子 70.5%、女子 60.0%)、「ファストフード」(同 23.5%、13.5%)、「外で買ってきた惣菜やお弁当」(同 21.0%、13.5%)の差が目立ちます。

学校別にみると、《小学生》で「給食」をあげる割合が8割弱(77.5%)と、《中学生》(53.0%)より25ポイントほど高いのが目につきます。

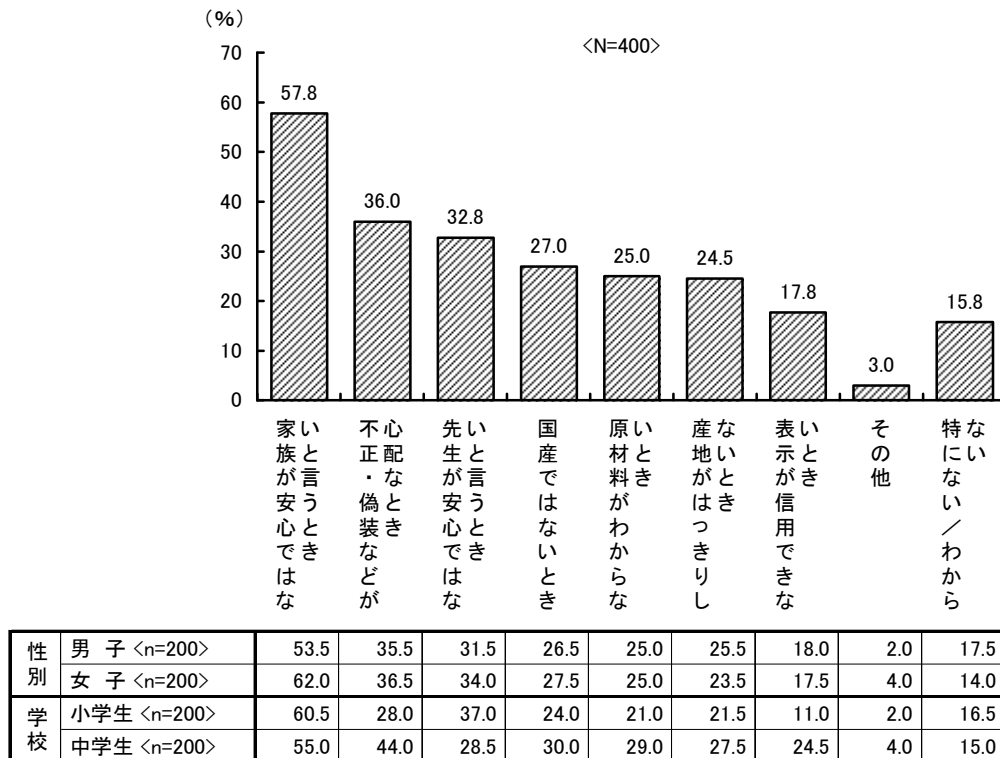


#### 4. 食べ物や食事が“安心して食べられない”と思うのは、どんなときか

「家族が安心ではないと言うとき」(57.8%)が最も多く、以下「不正・偽装などが心配なとき」(36.0%)、「先生が安心ではないと言うとき」(32.8%)、「国産ではないとき」(27.0%)、「原材料がわからないとき」(25.0%)などは“安心して食べられない”と思う。

●“家族や先生が安心ではないと言うとき”は、《女子》の方が高め。

図 34. 食べ物や食事が安心して食べられないと、思うのはどんなときか（複数回答）



次に、食べ物や食事が“安心して食べられない”と思うのは、どんなときか聞いてみたところ、「特にない・わからない」という人が 15.8%いますが、残りの 8割強（84.3%）は“安心して食べられない”と思うときが“ある”と答えています。どんなときかをみると、「家族が安心ではないと言うとき」(57.8%)が過半数を占め最も多く、以下「不正・偽装などが心配なとき」(36.0%)、「先生が安心ではないと言うとき」(32.8%)、「国産ではないとき」(27.0%)、「原材料がわからないとき」(25.0%)、「産地がはっきりしないとき」(24.5%)などが続いています。親など家族や先生のいうときはもちろん、マスコミなどで話題になるニュース・不祥事などもかなり影響しているようです。

性別にみると、いずれも「家族が安心ではないと言うとき」が最も多くなっているのをはじめ、上位にあげられている項目は全体と変わりありません。なお、「家族が安心ではないと言うとき」(男子 53.5%、女子 62.0%)や「先生が安心ではないと言うとき」(同 31.5%、34.0%)をあげる割合は《女子》の方が高くなっています。

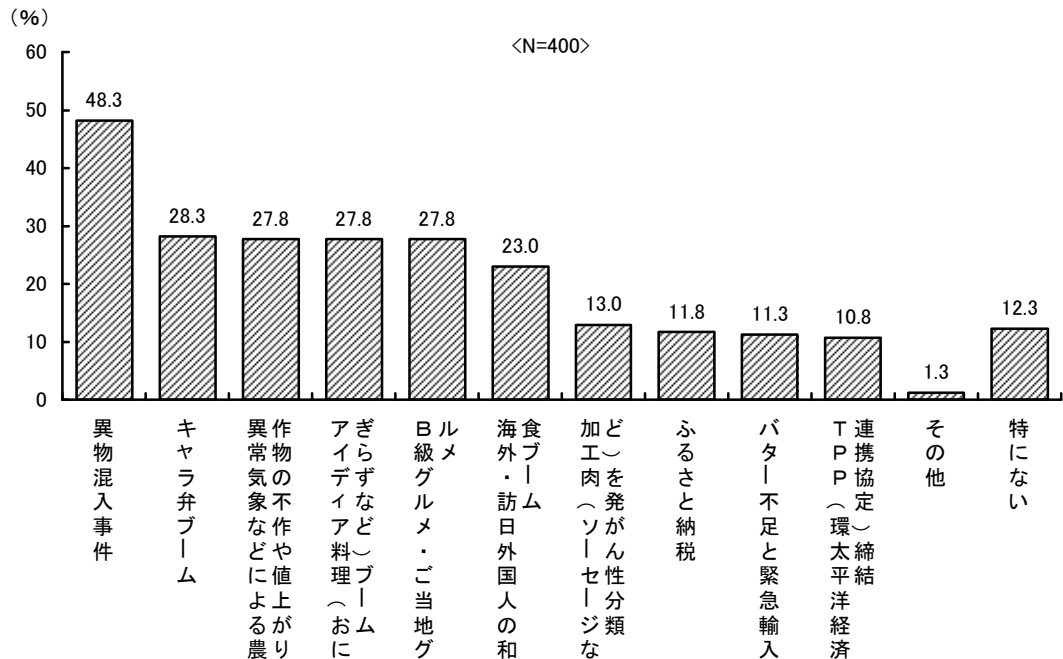
学校別にみると、「家族が安心ではないと言うとき」(小学生 60.5%、中学生 55.0%)や「先生が安心ではないと言うとき」(同 37.0%、28.5%)など“家族や先生が言うとき”をあげる割合は《小学生》の方が高めですが、「不正・偽装などが心配なとき」(小学生 28.0%、中学生 44.0%)など、その他の項目は《中学生》の方が高くなっています。

## 5. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていること

「異物混入事件」(48.3%)がトップ。第2位に「キャラ弁ブーム」(28.3%)、同率第3位は「異常気象などによる農作物の不作や値上がり」「アイデア料理(おにぎらずなど)ブーム」「B級グルメ・ご当地グルメ」(各 27.8%)。

●《女子》では「アイデア(おにぎらずなど)料理ブーム」(37.5%)が第2位、第3位に「キャラ弁ブーム」(37.0%)。

図 35. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていること（3つまで）



性別	男子 <n=200>	46.5	19.5	29.0	18.0	32.0	22.0	13.0	13.5	9.0	14.0	1.5	16.5
	女子 <n=200>	50.0	37.0	26.5	37.5	23.5	24.0	13.0	10.0	13.5	7.5	1.0	8.0
学校	小学生 <n=200>	42.5	34.0	27.0	28.5	27.5	23.0	10.5	11.0	10.5	6.0	1.0	15.0
	中学生 <n=200>	54.0	22.5	28.5	27.0	28.0	23.0	15.5	12.5	12.0	15.5	1.5	9.5

ここ1年間の“食”に関するニュースやキーワードで、印象に残っていることを3つまであげてもらったところ、「異物混入事件」(48.3%)が最も多く、以下「キャラ弁ブーム」(28.3%)、同率で「異常気象などによる農作物の不作や値上がり」「アイデア料理(おにぎらずなど)ブーム」「B級グルメ・ご当地グルメ」(各 27.8%)、「海外・訪日外国人の和食ブーム」(23.0%)の順となっています。

性別にみると、いずれも「異物混入事件」がトップですが、以下《男子》では「B級グルメ・ご当地グルメ」(32.0%)、「異常気象などによる農作物の不作や値上がり」(29.0%)が続きトップ3となっています。一方、《女子》では「アイデア料理(おにぎらずなど)ブーム」(男子 18.0%、女子 37.5%)、「キャラ弁ブーム」(同 19.5%、37.0%)をあげる割合が《男子》より20ポイント近く高く、順に第2位、第3位になっています。

学校別にみても、いずれも「異物混入事件」がトップですが、その割合は《小学生》(42.5%)より《中学生》(54.0%)の方が高くなっています。以下《小学生》では「キャラ弁ブーム」(34.0%)、「アイデア料理(おにぎらずなど)ブーム」(28.5%)が、《中学生》は「異常気象などによる農作物の不作や値上がり」(28.5%)、「B級グルメ・ご当地グルメ」(28.0%)が続き、それぞれトップ3になっています。

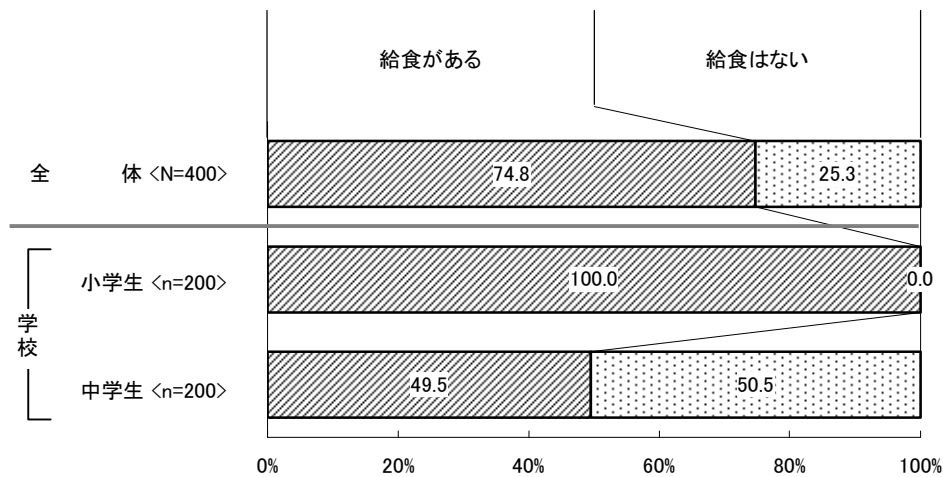
# VI 学校生活における“食”とのかかわり

## 1. 『学校給食』が好きか

『学校給食』が「ある」人(74.8%:小学校 100.0%、中学校 49.5%)の3人に2人が「好き」(66.6%)、「嫌い」な人は1割(10.0%)。

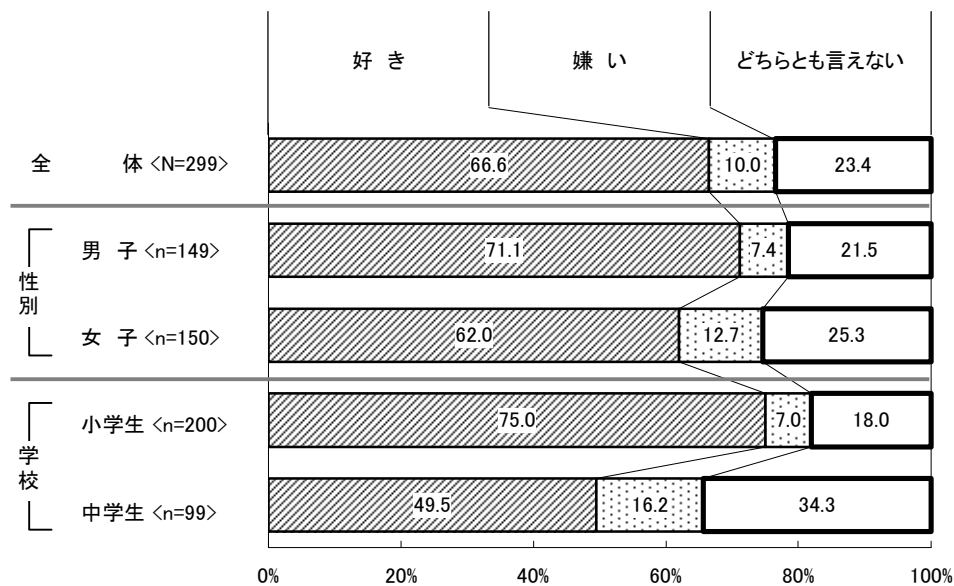
●《小学生》の4人に3人が「好き」(75.0%)。

図 36. 『学校給食』の有無



学校給食の有無をみると、「給食がある」、すなわち“給食を食べている”人は小学生が全員(100.0%)、中学生が半数(49.5%)、全体では4人に3人(74.8%)の割合となっています。

図 37. 『学校給食』が好きか



“給食を食べている”人（299人）に、その好き嫌いを聞いてみたところ、「好き」（66.6%）という人が3人に2人の割合で見られます。

性別にみると、「好き」という割合は《男子》（71.1%）の方が《女子》（62.0%）より一層高率です。

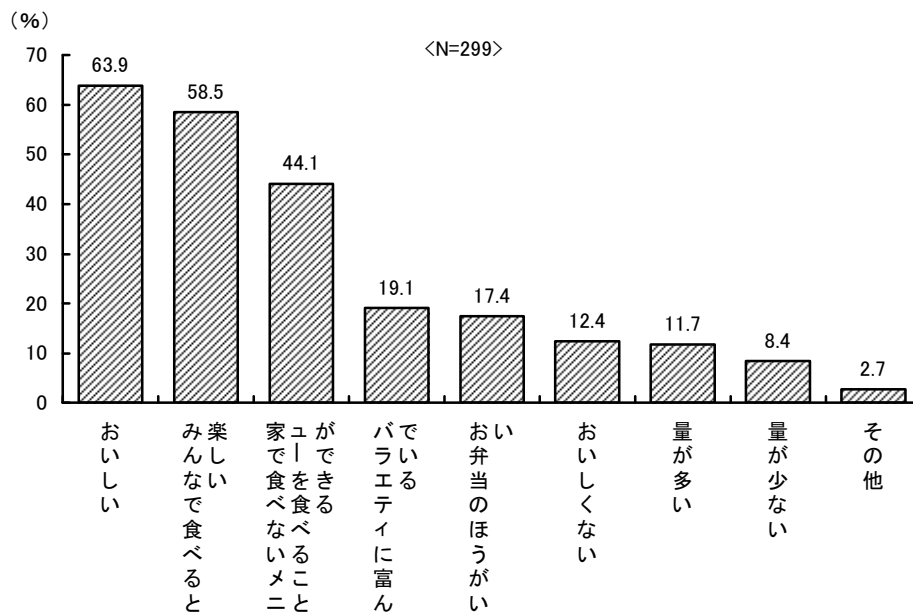
学校別にみると、《小学生》では4人に3人が「好き」（75.0%）と答えていますが、《中学生》ではほぼ半数（49.5%）の割合に下がっています。

◆前回の調査と比較すると、「給食がある」、すなわち給食を食べている人の割合は74.8%→74.8%と同率です。“給食を食べている”人の、その好き嫌いをみると、「好き」が72.2%→66.6%と比率を下げ、「嫌い」が5.7%→10.0%とわずかにアップしています。

### 1-1. 学校給食について、どのように感じているか

「おいしい」(63.9%)、「みんなで食べると楽しい」(58.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(44.1%)など、“良いイメージ”が上位。

図 38. 学校給食について、どのように感じているか



性別	男子 <n=149>	68.5	59.1	43.0	17.4	17.4	9.4	9.4	12.8	3.4
	女子 <n=150>	59.3	58.0	45.3	20.7	17.3	15.3	14.0	4.0	2.0
学校	小学生 <n=200>	74.0	63.0	48.5	18.5	12.0	6.5	11.0	7.5	2.0
	中学生 <n=99>	43.4	49.5	35.4	20.2	28.3	24.2	13.1	10.1	4.0
学校給食	好き <n=199>	88.4	66.3	52.8	22.1	6.0	0.5	8.5	9.0	1.5
	嫌い <n=30>	-	23.3	3.3	3.3	50.0	76.7	20.0	10.0	10.0
	どちらとも言えない <n=70>	21.4	51.4	37.1	17.1	35.7	18.6	17.1	5.7	2.9

次に、学校給食が“ある（食べている）”人に、学校給食について、どのように感じているか聞いてみたところ、「おいしい」(63.9%)が最も多く、以下「みんなで食べると楽しい」(58.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(44.1%)、「バラエティに富んでいる」(19.1%)といった“良いイメージ”が続いています。半面、「お弁当のほうがいい」(17.4%)、「おいしくない」(12.4%)、「量が多い」(11.7%)、「量が少ない」(8.4%)と感じている人もいます。

性別にみると、いずれもトップの「おいしい」という割合は、《女子》(59.3%)より《男子》(68.5%)の方が高めですが、上位にあげられている項目は全体と変わりありません。

なお、「量が少ない」という評価は、《女子》(4.0%)より《男子》(12.8%)の方が、「量が多い」は《男子》(9.4%)より《女子》(14.0%)の方がそれぞれ高くなっています。

学校別にみると、《小学生》では「おいしい」(74.0%)がトップですが、《中学生》は43.4%と31ポイントほど比率を下げ、「みんなで食べると楽しい」(49.5%)がトップになっています。また、《中学生》では《小学生》に比べ、「お弁当のほうがいい」(小学生12.0%、中学生28.3%)、「おいしくない」(同6.5%、24.2%)といった感想が高いのが目につきます。

また、学校給食の好き嫌い別にみると、“好き”な人は「おいしい」(88.4%)、「みんなで食べると楽しい」(66.3%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(52.8%)など“良いイメージ”が一層高率になっています。

サンプルは少数(30人)ですが、“嫌い”な人では「おいしくない」(76.7%)、「お弁当のほうがいい」(50.0%)が目立ちます。

◆前回の調査と比較すると、前回も「おいしい」(70.2%→63.9%)、「みんなで食べると楽しい」(61.5%→58.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(42.1%→44.1%)がトップ3です。

## 1-2. 給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理

“好きな料理”は、日本人の“国民食”とも言える「カレー」(85件)がトップで、次いで「揚げパン」(50件)も多い。以下、「唐揚げ」(13件)、「ハンバーグ」(12件)、「サラダ」(11件)、「うどん」(10件)など。

“嫌いな料理”は、「特になし」(62件)が多いが、料理としては「魚料理」(24件)が最も多く、以下「サラダ」(19件)、「豆が入っている料理」(15件)、「パン」(14件)、「スープ」(12件)、「混ぜご飯」(11件)など。

表 3. 給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理（自由回答：複数回答）

順位	【好きな料理】	件数	男子	女子	順位	【嫌いな料理】	件数	男子	女子
1	カレー	85	54	31	1	魚料理	24	11	13
2	揚げパン	50	24	26	2	サラダ	19	9	10
3	唐揚げ	13	9	4	3	豆が入っている料理	15	8	7
4	ハンバーグ	12	9	3	4	パン	14	4	10
5	サラダ	11	1	10	5	スープ	12	5	7
6	うどん	10	7	3	6	混ぜご飯	11	8	3
7	キムチチャーハン	9	7	2	7	ビーンズサラダ	8	4	4
8	パン	8	2	6	8	和え物	6	3	3
	ミートソーススパゲティ	8	2	6		海藻サラダ	6	2	4
10	ラーメン	6	2	4		ししゃも	6	2	4
11	焼きそば	4	2	2		トマト、ミニトマト	6	3	3
12	シチュー	3	1	2		煮物	6	2	4
	その他	78	27	51		野菜	6	3	3
						14	ゴーヤチャンプルー	5	1
						ピーマン	5	4	1
					16	ぶどうパン	4	2	2
						その他	82	42	40
						特になし	62	34	28

ここでは、給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理を具体的にあげてもらいました。

まず、“好きな料理”をみると、日本人の“国民食”とも言える「カレー」(85件)がトップにあげられ、次いで「揚げパン」(50件)もかなり多くなっています。そのほかはかなり少なくなりますが、「唐揚げ」(13件)、「ハンバーグ」(12件)、「サラダ」(11件)、「うどん」(10件)、「キムチチャーハン」(9件)、「パン」(8件)、「ミートソーススパゲティ」(8件)など、多種多様な料理があげられています。

性別にみると、男女とも「カレー」が最も多くなっていますが、《男子》(54件)の方が《女子》(31件)よりかなり多くなっています。一方、「サラダ」は《女子》(10件)では3位ですが、《男子》(1件)ではほとんどみられません。

次に、「嫌いな料理」をみると、「特になし」(62件)という人が多くなっていますが、料理としては「魚料理」(24件)が最も多く、以下「サラダ」(19件)、「豆が入っている料理」(15件)、「パン」(14件)、「スープ」(12件)、「混ぜご飯」(11件)、「ビーンズサラダ」(8件)などが続いています。

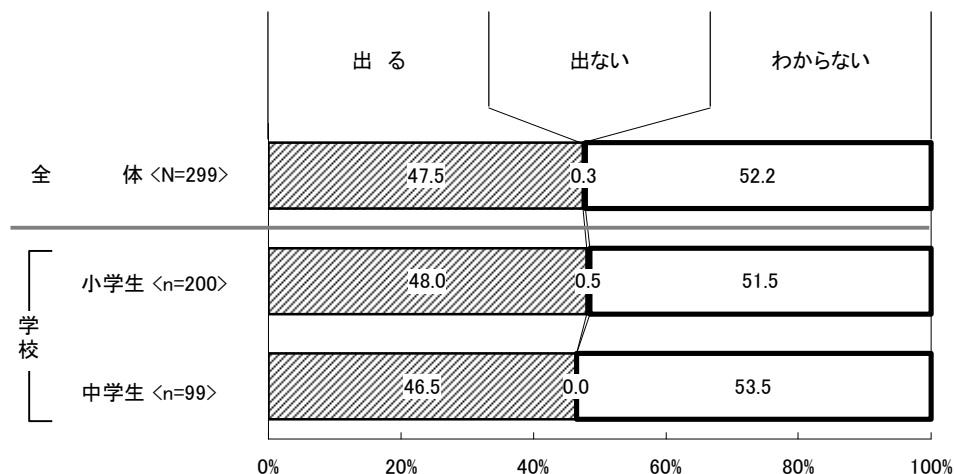


### 1-3. 給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか

「わからない」(52.2%)という人が半数強を占めるが、5割弱(47.5%)が「出る」。

●**地元の材料は、「野菜」(26件)が最も多く、以下「大根」(14件)、「にんじん」(12件)、「小松菜」(11件)、「米」(11件)、「梨」(11件)など。**

図 39. 給食に、地元の食べ物や材料が出てくるか



給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか聞いてみたところ、「わからない」（52.2%）という人が半数強を占めていますが、5割弱（47.5%）が「出る」と答えています。

学校別に「出る」割合をみると、「小学生」が48.0%、「中学生」が46.5%と、いずれも4割台です。

◆**前回の調査と比較すると、「出る」割合が39.5%→47.5%と増えており、学校給食にも食の安全・安心志向のより一層の高まりか、いわゆる“地産地消”は浸透しつつあるようです。**

表 4. 給食に出る地元の食材（自由回答：複数回答）

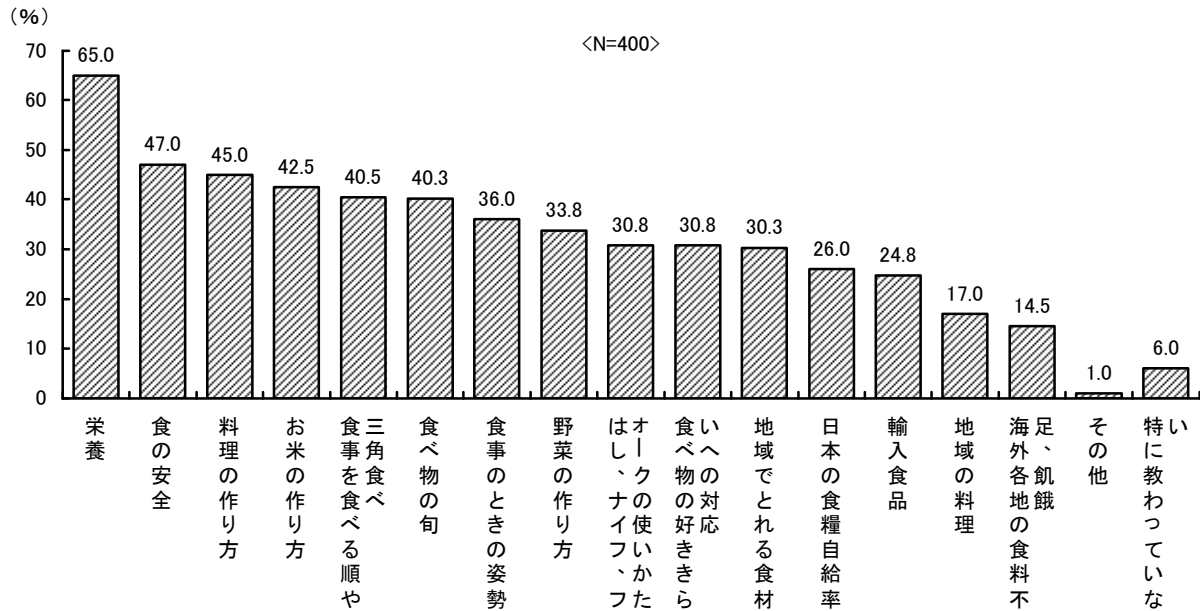
順位		件数	小学校	中学校
1	野菜	26	13	13
2	大根	14	12	2
3	にんじん	12	8	4
4	小松菜	11	7	4
	米	11	7	4
	梨	11	6	5
7	キャベツ	8	7	1
8	ウド	7	7	0
	カブ	7	2	5
10	いも	6	6	0
11	ネギ	5	4	1
12	白菜	4	4	0
	ぶどう	4	3	1
	ブルーベリー	4	3	1
	ほうれん草	4	2	2
	その他	46	32	14

では、どんな地元の食材が出るのか具体的にあげてもらったところ、「野菜」（26 件）が最も多く、以下「大根」（14 件）、「にんじん」（12 件）、「小松菜」（11 件）、「米」（11 件）、「梨」（11 件）、「キャベツ」（8 件）の順となっています。「小松菜」や「梨」など、おそらく“地元の名産品”も含まれているようです。

## 2. 学校で、“食”について教わったこと

大半の人が、「栄養」(65.0%)、「食の安全」(47.0%)、「料理の作り方」(45.0%)、「お米の作り方」(42.5%)、「食事を食べる順や三角食べ」(40.5%)、「食べ物の旬」(40.3%)などについて“教わった”(94.0%)。

図 40. 学校で、“食”についてどんなことを教わったか（複数回答）



学校で、“食”についてどんなことを教わったか聞いてみたところ、「特に教わっていない」(6.0%)という人は少数で、大半の人は“教わった”(94.0%)と答えています。

具体的には、「栄養」(65.0%)が唯一過半数を占め最も多く、以下「食の安全」(47.0%)、「料理の作り方」(45.0%)、「お米の作り方」(42.5%)、「食事を食べる順や三角食べ」(40.5%)、「食べ物の旬」(40.3%)、「食事のときの姿勢」(36.0%)が続いています。学校教育で“食”について、いろいろなことを学んでいるようです。

◆前回の調査と比較して、今回上位にあげられた項目の変化をみると、「栄養」(69.5%→65.0%)、「食の安全」(43.5%→47.0%)、「料理の作り方」(40.3%→45.0%)、「お米の作り方」(44.5%→42.5%)、「食事を食べる順や三角食べ」(40.0%→40.5%)、「食べ物の旬」(31.5%→40.3%)となっており、大きな増減はみられません。学校教育において“食”とのかかわり度は依然高いようです。

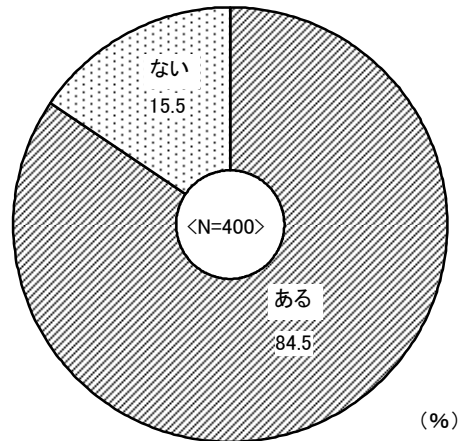
### 3. 学校でお米や野菜を育てたこと

8割強が「ある」(84.5%)。

●育てたものは、「米」(184件)が圧倒的に多く、以下「トマト」(99件)、「ゴーヤ」(42件)、「ミニトマト」(37件)、「なす」(35件)、「大根」(28件)、「きゅうり」(27件)、「じゃがいも」(22件)などさまざま。

●学校でお米や野菜を育てたことが“ない”人の半数以上が育ててみたいと「思う」(56.5%)。

図 41. 学校でお米や野菜を育てたこと



学校でお米や野菜を育てたことがあるか聞いてみたところ、「ある」(84.5%)という人が圧倒的に多くなっており、お米や野菜を育てることを通じた“食”の教育も盛んの様です。また、“地産地消”として、育てたお米や野菜は学校給食にも利用されているのではないのでしょうか。

◆前回の調査と比較すると、育てたことが「ある」という割合は 76.8%→84.5%と増えており、“食”とのかかわり度が増えてきていることを裏付けています。

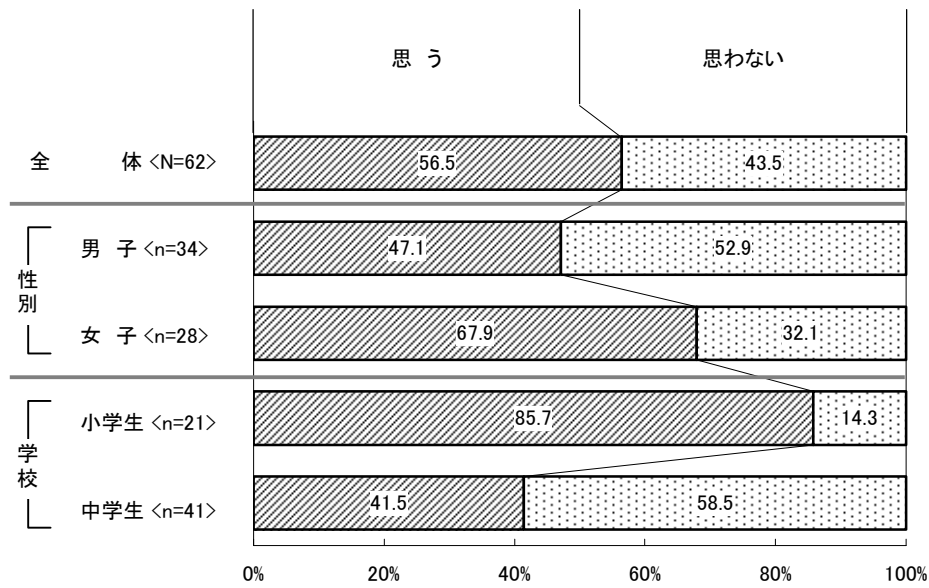
表 5. 学校で育てたもの（自由回答：複数回答）

順位		件数	男子	女子
1	米	184	88	96
2	トマト	99	41	58
3	ゴーヤ	42	15	27
4	ミニトマト	37	17	20
5	なす	35	12	23
6	大根	28	7	21
7	きゅうり	27	10	17
8	じゃがいも	22	8	14
9	さつまいも	17	10	7
10	ピーマン	16	6	10
11	オクラ	15	8	7
12	枝豆	12	5	7
13	小松菜	8	1	7
	とうもろこし	8	1	7
15	ヘチマ	6	3	3
16	イチゴ	5	1	4
	ほうれん草	5	3	2
18	落花生	4	1	3
	ラディッシュ	4	2	2
	その他	37	13	24

では、どんなものを育てたのでしょうか。

具体的にあげてもらった結果、「米」（184件）が圧倒的に多く、以下「トマト」（99件）、「ゴーヤ」（42件）、「ミニトマト」（37件）、「なす」（35件）、「大根」（28件）、「きゅうり」（27件）、「じゃがいも」（22件）、「さつまいも」（17件）、「ピーマン」（16件）、「オクラ」（15件）、「枝豆」（12件）など、さまざまなものを育てています。

図 42. 学校でお米や野菜を育ててみたいと思うか



学校でお米や野菜を育てた経験が“ない”人(62人)に、育ててみたいと思うか聞いてみたところ、「思う」(56.5%)という人が過半数を占めています。

性別にみると、「思う」割合は《男子》(47.1%)より《女子》(67.9%)の方がかなり高くなっています。

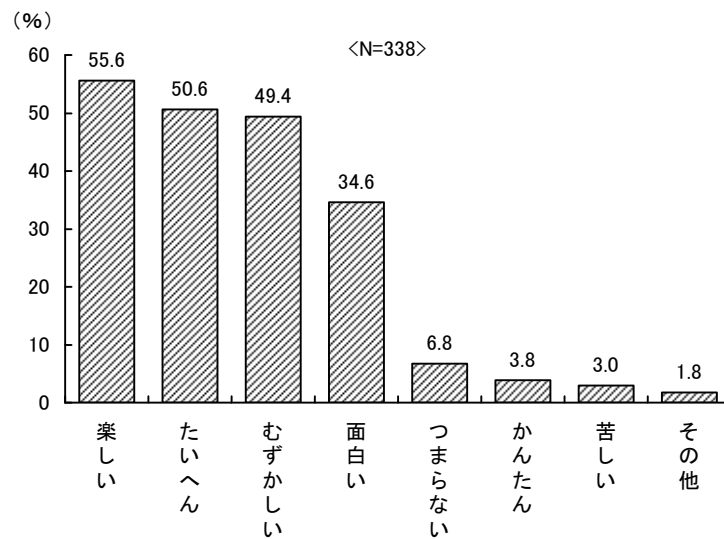
また、学校別にみると、《小学生》では85.7%と圧倒的に多くなっていますが、《中学生》は4割強(41.5%)にとどまっています。

◆前回の調査と比較すると、育ててみたいと「思う」割合が45.2%→56.5%と増えています。

### 3-1. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか

「楽しい」(55.6%)、「面白い」(34.6%)が、「たいへん」(50.6%)、「むずかしい」(49.4%)という感想も多い。

図 43. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか（複数回答）



性別	男子 <n=166>	女子 <n=172>	楽しい	たいへん	むずかしい	面白い	つまらない	かんたん	苦しい	その他
男子 <n=166>	53.0	41.0	50.6	31.9	8.4	4.8	3.6	1.2		
女子 <n=172>	58.1	59.9	48.3	37.2	5.2	2.9	2.3	2.3		

学校でお米や野菜を育てたことが「ある」という人（338人）に、育ててみてどう思ったか聞いてみたところ、「楽しい」（55.6%）という人が最も多くなっていますが、以下「たいへん」（50.6%）、「むずかしい」（49.4%）といった否定的な感想が続いています。また、「面白い」（34.6%）という人も多くみられます。学校でお米や野菜を育てることは、友だちと一緒に楽しさもあるが、農業の大変さや難しさを知るいい機会になっているようです。

性別にみると、「楽しい」（男子53.0%、女子58.1%）、「面白い」（同31.9%、37.2%）という割合は《男子》より《女子》の方が高めですが、「たいへん」も《男子》（41.0%）より《女子》（59.9%）の方が19ポイントほど高くなっています。

◆前回の調査と比較すると、前回も「楽しい」（57.7%→55.6%）、「面白い」（29.6%→34.6%）が多い反面、「たいへん」（60.3%→50.6%）、「むずかしい」（43.0%→49.4%）といった否定的な感想も多くなっています。